

Sustainability Report 2023

サステナビリティレポート2023


sound mind, sound body



Table of Contents

トップメッセージ	3
At a glance	4
アシックスのサステナビリティ	5
PEOPLE - 人と社会への貢献	13
PLANET - 環境への配慮	27
FUTURE - ASICS VISION2030におけるサステナビリティ	41
Appendix	43

Message from the CEO



アシックス・サステナビリティレポート 2023へようこそ。
本レポートは、アシックスのサステナビリティでの社会的側面、環境的側面での戦略や目標、実行結果およびそれを受けての今後の計画について説明しています。

アシックスは、創業以来、「Anima Sana In Corpore Sano（健全な身体に健全な精神があれかし）」を理念に、サステナビリティに取り組んできました。

本レポートは、当社のサステナビリティ経営の最新章であり、地球環境への負荷を抑えながら心身の健康を科学的に追究し推進する、私たちの活動に焦点を当てたものです。2023年は、アシックスの長期ビジョン「VISION2030」の道のりの中で、「中期経営計画2023」の最終年度でした。その結果はレポート全体を通してご覧になることができます。また、本レポートは、次のステージである「中期経営計画2026」のスタートでもあります。

「中期経営計画2026」では、アシックスは、Global Integrated Enterprise (GIE) に変革するための道筋を示しています。同計画では、デジタル、サステナビリティ、人的資本、財務およびガバナンスの5つの分野で、ビジネスの基盤を強化していきます。サステナビリティは、その戦略の中心として位置づけられており、アシックスで重要な役割を担っています。

サステナビリティにおける2026年の最重要目標は、アシックスの成長戦略に則り、「責任ある調達」および透明性の向上を実現させながらCO₂排出量を削減することです。この1年、事業全体の中でも特に温室効果ガス排出量最少スニーカー※「GEL-LYTE™ III CM 1.95」などの先進的な製品の開発、製品のカーボンフットプリント表示、サプライヤーのサステナブル経営に向けたデジタルシステムの開発などに注力してきました。今後も、サステナビリティへのコミットメントに基づく施策を全社で実施します。

※2023年9月時点、製品ライフサイクルにおける温室効果ガス排出量が開示されている市販シューズを対象としたデータに基づいています。

アシックスは、サステナビリティレポートの発行を透明性の維持と向上のため継続的な取り組みの一環と位置づけています。現在は、欧州または国際的な非財務情報開示基準の要件を満たすレポートの準備を進めており、2024年も引き続き、サステナビリティへの実践と並行してこれに取り組めます。

アシックスは、意欲的な目標の達成に向けて挑戦を続けます。本レポートを通じて、当社サステナビリティ経営への皆様のご支援および、ご意見を賜ることができれば幸いです。

代表取締役会長CEO **廣田 康人**

asics

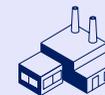
2023 at a glance

創業哲学である

”Anima Sana In Corpore Sano
(健全な身体に健全な精神があれかし)”
に則り、アシックスは人々が幸せで
健康な生活を送れるように
サポートすることを目指しています。



8,927人
従業員数



99%以上
アシックス基準以上の
一次生産委託先工場の割合



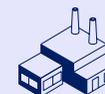
38.1%
女性管理職比率



29.8%
事業活動を通じたCO₂削減率



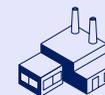
40%以上
シューズとウエアのポリエステル材のリサイクル比率



80%
1.5°C目標を設定・公開している
フットウェア戦略工場の割合



1,025,836 USドル
コミュニティへの資金援助・スポーツ
用品提供



90%
再生可能エネルギー調達プラン
のあるフットウェア戦略工場の
割合



売上高: 5,704億円
当期純利益: 352億円



カテゴリー別 売上高

- パフォーマンスランニング
- コアパフォーマンススポーツ
- オニツカタイガー
- スポーツスタイル
- その他
- アパレル・エキップメント

INTRODUCTION

アシックスの サステナビリティ

アシックスは、「サステナブル」であることに注力しています。サステナビリティは「VISION2030」の戦略テーマのひとつであり「中期経営計画2026」の一部でもあります。

サステナビリティ戦略の柱はCO₂排出削減、責任ある調達、人権の尊重、透明性の向上といった取り組みです。当社のサステナビリティへの取り組みは、製品提供からサプライヤーとのパートナーシップ構築、目標とパフォーマンスの開示まで、企業活動全般に浸透しています。これらの活動を通じて、Sound Mind, Sound Bodyという当社の理念に沿って、人々の心身の健康の向上を目指しています。

チャプターハイライト

サステナビリティ活動の 取り組みとアプローチ	6
マテリアリティとステーク ホルダーエンゲージメント	10
KPI	12

サステナビリティ活動の取り組み

アシックスの活動の取り組みは、People（人と社会への貢献）とPlanet（環境への配慮）という2つの柱に基づいています。この枠組みで、私たちは、持続可能な開発目標、具体的なアクションおよび倫理的なパートナーシップの構築という目標を掲げて、スポーツができる環境を守ること、および人々の心身の健康の向上を目指しています。

この活動の取り組みは、当社のVISION2030および中期経営計画2026に沿って作成されており、また当社のマテリアリティ（重要テーマ）分析に基づいて作られています。当社のマテリアリティは、ステークホルダーおよび外部フレームワーク（国連の持続可能な開発目標（SDGs）など）からの情報、ならびに事業活動やより広範な背景事情から得られた情報を基に設定されています。これらのマテリアリティはアシックスの中長期の企業価値に影響を与えるものであり、具体的には気候変動への対応、サプライチェーンの人権・透明性、イノベーションなどの分野をカバーしています。中でも当社は創業理念に沿って、人々の心身の健康の項目に重点を置いています。詳細については、17ページをご覧ください。

[*詳しくはホームページ「サステナビリティ活動の枠組み」をご参照ください →](#)

サステナビリティ戦略を上記フレームワークに沿って実施するにあたり、目標を設定し、行動を起こし、パフォーマンスを評価し、将来の計画を立てるというPDCAアプローチを採用しています。詳細についてはレポート全体を通してご覧いただくことができます。

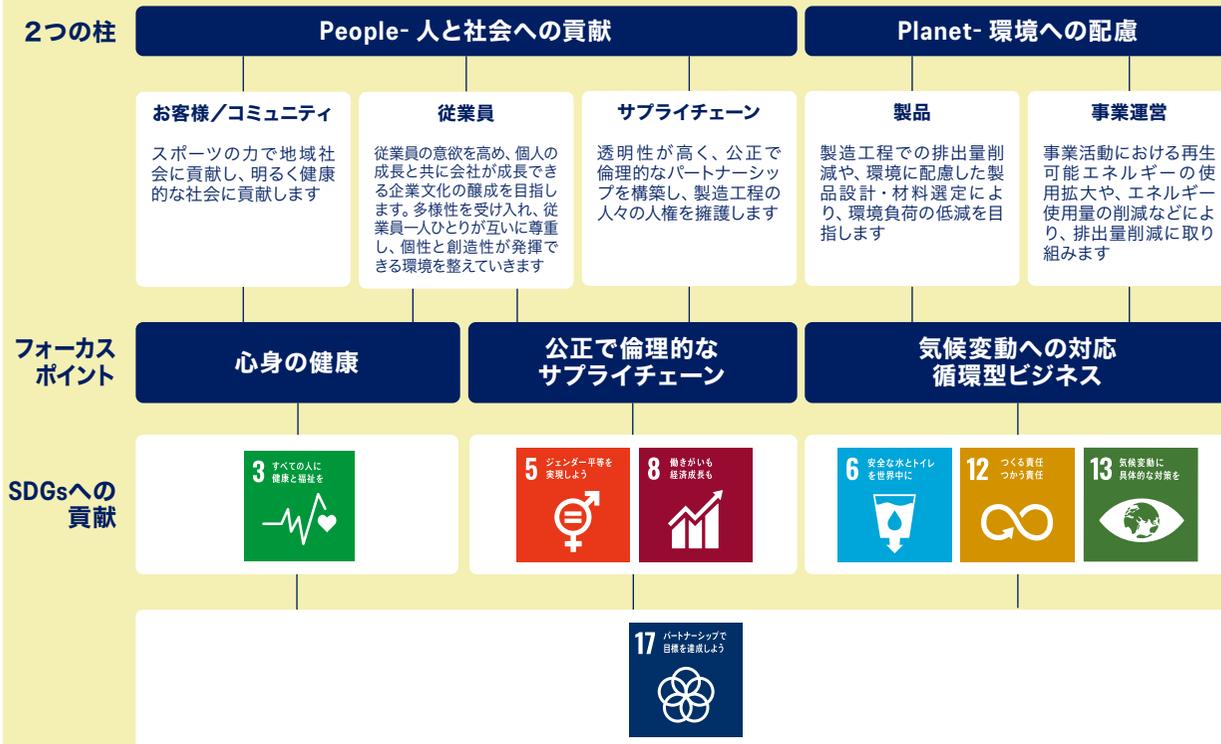
取り組みに対する認識

アシックスは、製品とサービスを通じて人々の心身の健康を継続的に向上させることを目指しており、透明性が高く、情報の追跡が可能で、安全かつインクルーシブなネットゼロの未来を目指すにあたって、これまでの実績を見直し、検討を行っています。

[*詳しくはホームページ「社外からの評価」をご参照ください →](#)

サステナビリティ活動の枠組み

1949年の創業より、アシックスの使命は人々の心と体を健康にすることです。そのためには、快適に走れる健やかな地球環境が不可欠です。健全な心身、健やかな環境が将来世代まで続くよう私達は取り組んでいきます。



アシックスのバリューチェーン

アシックスの製品・サービスは人々の心身の健康を実現するために提供されています。また、素材の選択から製品の廃棄・リサイクルに至るまで、バリューチェーンの各段階で環境負荷の少ない革新的でサステナブルな技術や材料を開発しています。

[*詳しくはホームページ「製品」をご参照ください→](#)

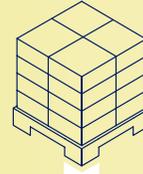
[*詳しくはホームページ「事業運営」をご参照ください→](#)



バリューチェーン全体でサステナビリティを推進

原材料

リサイクルまたはバイオベースのポリエステルや発泡材など、より持続可能な主要材料を使用しています。



材料加工

品質および安全性についての規格に準拠し、生産工程における資源消費と温室効果ガス排出量の削減に取り組んでいます。



製品製造

サプライヤーとの協力関係を通じて環境への影響を削減し、サプライヤーによる再生可能な代替エネルギーの採用を奨励しています。



廃棄物とリサイクル

パートナーシップと回収プログラムを通じて、循環型ビジネスを支援しています。



サプライヤーとの協働

透明、公正かつ倫理的なパートナーシップで人々を支援しています。



製品の使用

製品の安全性と品質を重大な責務ととらえ、事業全体でそれらの保証に関する方針や、国際的品質管理原則に基づくガイドラインを定め、全ての製品がお客様にとって安全であるよう努めています。日本の一部製品では修理サービスを実施しています。



販売

店舗ではエネルギーを効率的に使い、店舗内の備品は可能な限り再利用し、より環境への影響が少ない店舗設計や店舗運営を努めています。



配送

サプライヤーと協力して、環境への影響が少ないパッケージへの移行など、最も効率的な方法で製品をさまざまな市場に輸送しています。



サステナビリティ方針とガイドライン

アシックスの従業員およびビジネスパートナーが共通のサステナブルな未来に向けて協力できるよう方針とガイドラインを設定しています。

また、方針とガイドラインを事業の中核に組み込むため、従業員やビジネスパートナーに対して継続的なトレーニングを提供しています。

これには、素材や製品のガイドラインに関するトレーニング、当社のエンゲージメントポリシーに関するサプライヤー向けトレーニング、およびアシックスの行動規範に関する従業員向けトレーニングが含まれます。

当社方針		
アシックス	ビジネスパートナー管理 (含サプライヤー)	材料調達
アシックスCSR方針 →	ビジネスパートナー管理方針 (サプライヤー向け行動規範) →	アシックス材料選定ガイドライン
アシックスグローバル行動規範 →	工場CSRコンプライアンス管理ガイド	動物由来の材料に関する方針
グローバル反トラスト・競争方針 →	アシックスグローバル工場選定ガイドライン	紛争鉱物に関する方針
グローバル賄賂防止・腐敗行為防止方針 →	委託先工場の撤退・縮小時の対応ガイドライン	綿に関する方針
グローバル環境方針 →		制限化学物質に関する方針
グローバルプライバシー方針 グローバル内部通報方針 →		サステナブルパッケージ方針
アシックス人権方針 →		



サステナビリティの管理

サステナビリティは、株主および取締役会に至るまで、アシックスの運営組織にとっての重要課題です。企業全体のガバナンス体制により、サステナビリティ戦略とビジネス全体の戦略が統合された状態を維持できるようになっています。

→ 取締役会

企業目標にサステナビリティが組み込まれるよう、取締役会がアシックスのサステナビリティ戦略を監督します。最高管理責任者（CAO）は、サステナビリティ委員会とリスクマネジメント委員会からの情報をもとに、サステナビリティに関するリスクと機会について、CEOおよび取締役会に定期的に報告します。

→ サステナビリティ委員会

CEOが議長を務め、報告します。

→ リスクマネジメント委員会

COOが議長を務め、報告します。

→ 人権委員会

人権についての助言、人権デュー・ディリジェンスの実施状況管理、およびアシックスの人権方針アクションの有効性についての評価を行います。

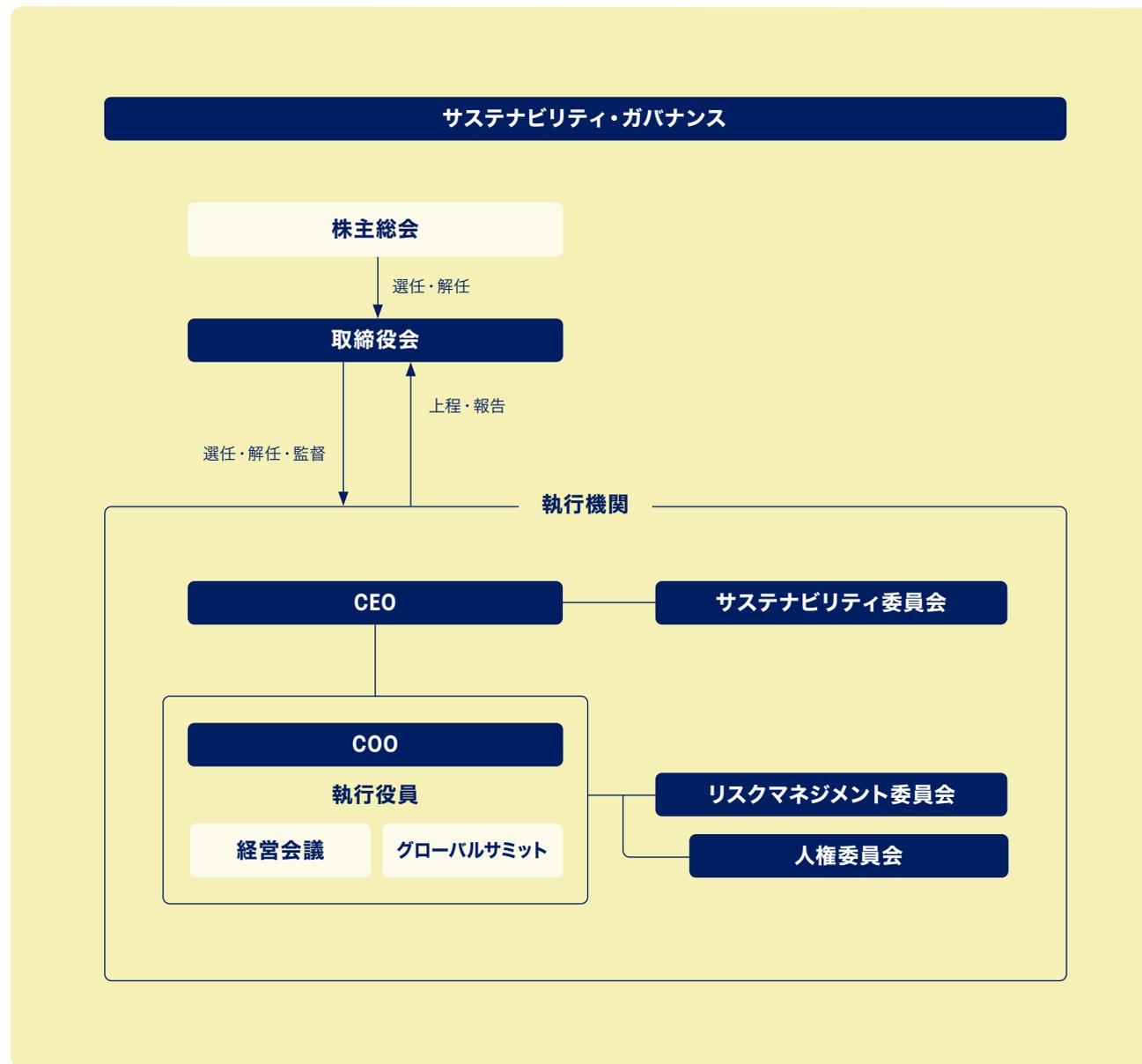
グローバルコンプライアンス体制

アシックスの従業員とビジネスパートナーは、機密性が保証されるグローバル内部通報システムを利用して報告できる体制を整えています。従業員、子会社、サプライヤーおよびパートナーがこの仕組みを利用するのを推奨しており、匿名で告発することもできます。グローバル内部通報方針に記載されている手順に基づいて、報告が適切かつ秘密裏に取り扱われるよう徹底しています。重大な問題については、最終的には監査等委員会に報告されます。

[*当社バリューチェーンの苦情処理メカニズムについてもっと詳しく読む →P21](#)

[*詳しくはホームページ「グローバルプライバシー方針・グローバル内部通報方針」をご参照ください →](#)

[*詳しくはホームページ「コーポレートガバナンス」をご参照ください →](#)



インパクト、リスクと機会の順位付け

アシックスは、マテリアリティ（重要テーマ）評価プログラムを実施しアシックスのステークホルダーおよび事業にとって重要なテーマを特定しています。包括的なレビューを3年ごとに実施し次の企業戦略とサステナビリティ戦略に備えています。2023年は中期経営計画2026の策定時に、ダブルマテリアリティ評価を行い、事業にもたらす機会とリスクを定義し、9つの重要テーマとその優先度を決定しました。

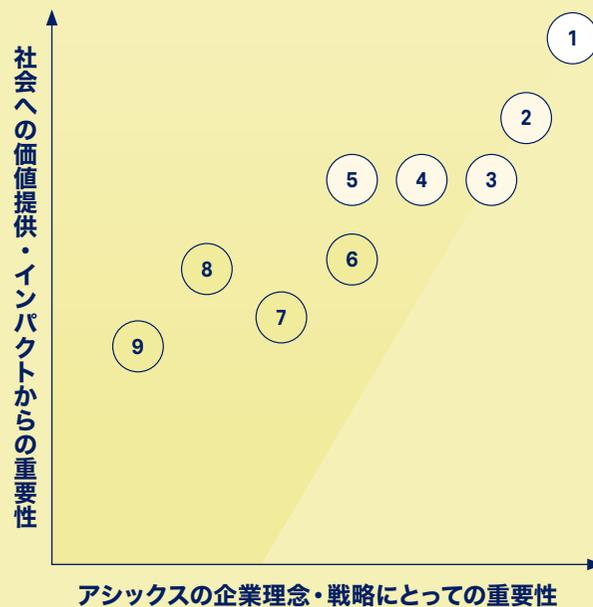
このダブルマテリアリティ評価は、2025年よりASICS Europeに適用される、欧州のCSRD^{*1}に対応するための準備のひとつとなっています。2028年より、ESRS^{*2}に基づいたグローバルでの報告が必要となる予定です。

それに備えて、初期のマテリアリティ評価をCSRDの要件に合わせ、主要な事業活動とステークホルダーの識別、ESRSとSASBスタンダードのテーマ、並びに初期インパクト評価を行いました。さらに内部のステークホルダーとのダブルマテリアリティワークショップを開催しました。ギャップ分析の実施と社内の部署との連携により、関連情報を収集し、重要なテーマを明らかにしています。また、特定されたギャップに基づき、CSRDの要件に適合するサステナビリティ報告に向けた、ロードマップの素案を作成しました。

※1 CSRD : Corporate Sustainability Reporting Directive (企業サステナビリティ報告指令)

※2 ESRS : European Sustainability Reporting Standards (欧州サステナビリティ報告基準)

マテリアリティ・マトリクス



マテリアリティ

当社は、社会への価値提供・インパクトからの重要性、並びにアシックスの企業理念・戦略にとっての重要性という観点からテーマをマッピングし、できあがったマトリクスにより、アシックスが着目すべき最も重要なテーマを明らかにしました。

1. 心身の健康
2. イノベーション
3. 製品とサービスの品質
4. サプライチェーンの人権・透明性
5. 気候変動への対応
6. 循環型ビジネス
7. ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン
8. コーポレートガバナンスと開示
9. 生物多様性と水の管理



バリューチェーンでのマテリアリティ

この表は、優先度の高いテーマとともにバリューチェーンへの影響について示しています。

	原材料 (三次委託先以降)	材料サプライヤー (二次委託先)	生産委託先工場 (一次委託先)	アシックス	販売	消費者	廃棄物とリサイクル
	材料と製品を製造するために使用される、未加工の原材料または原料	当社の製品に使用される材料サプライヤー	アシックス製品の製造に関与しているサプライヤー	アシックスグループのすべてのオフィス(物流を含む)	製品を販売する取引先(直営店・オンラインショップを含む)	アシックス製品およびサービスを購入または使用する人々	製品としての最終段階を意味し、消費者のニーズまたは期待に応えられなくなった状態
優先度が高い 重要テーマ					心身の健康		
					イノベーション		
					製品とサービスの品質		
	サプライチェーンの人権・透明性						
					気候変動への対応		
重要テーマ					循環型ビジネス		
					ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン		
					コーポレートガバナンスと開示		
				生物多様性と水の管理			

KPIの概要

アシックスの目標と進捗 マテリアリティ（重要テーマ）に沿って、KPIおよび行動を策定しています。

マテリアリティ	アプローチ	KPI	2023年実績	2024年計画
心身の健康	→ 創業哲学「健全な身体に健全な精神があれかし」のもと、誰もが生涯、運動・スポーツに関わり、心と身体が健康で居続けられる世界の実現を目指す。	→ OneASICS会員数 2026年：3,000万人、2023年：500万人	→ 2023年：945万人	→ 直営店とeコマースで顧客との接点を拡大する。 → エコシステムの拡大により、高付加価値なブランドエクスペリエンスを提供する。 → 革新的な製品、サービスおよびビジネスモデルを創出する。
サプライチェーンの人権・透明性	→ サプライチェーンで働く人々の人権を尊重し、心身の健康を保つ。また、サプライチェーンの透明性とサステナビリティを向上する。	→ すべての一次生産委託先工場が国際的および当社CSR基準を満たす。 → すべての一次生産委託先の戦略的パートナー工場がBレベル以上を達成する。 → すべての主要二次生産委託先工場がCレベル以上を達成する。	→ アシックス基準以上の一次生産委託先工場の割合：99%	→ サプライヤー評価システムおよび評価体制を推進させる。 → サプライヤーの自主的なCSRマネジメント能力を強化する。 → サプライチェーンにおける人権デュー・ディリジェンスを強化する。
気候変動への対応	→ バリューチェーン全体でCO ₂ 排出量を削減し、運動・スポーツができる地球環境を守る。	→ 事業所およびサプライチェーンでのCO ₂ 排出量削減率：2030年 63% → 事業所での再生可能エネルギー使用率：2030年 100%	→ 事業所でのCO ₂ 排出量削減率：29.8% → サプライチェーンでのCO ₂ 排出量削減率：21.6% → 事業所での再生可能エネルギー使用率：29.8%	→ 排出量の多い施設に焦点を絞り、再生可能エネルギーの使用率を継続的に高める。 → カーボンフットプリント表示の対象製品、カテゴリの拡大およびGEL-LYTE™ III CM 1.95で得た知見を他の製品にも反映させていく。 → フットウェアにおける一次委託先の戦略的パートナー工場において再生可能エネルギーへの切り替えを推進する。
循環型ビジネス	→ 使う資源を減らして長く使える製品を生産し、資源を循環させ、CO ₂ 排出量などの環境負荷を低減する。	→ シューズとウエアのポリエステル材のリサイクル材比率：2030年 100% → 製品や材料を再利用またはリサイクルするため製品回収プログラムを実施：2030年 3地域	→ 従来のポリエステル材の40%以上を再生ポリエステルに置き換え。 → 製品回収プログラムを3地域にて達成：日本、アメリカ、オーストラリア	→ 全製品カテゴリでの再生ポリエステルの使用を拡大する。 → サプライヤーとのパートナーシップを強化していく。 → 業界内外からの材料の再利用・リサイクルや、循環可能な製品設計により、循環型ビジネスを推進する。
ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン	→ 多様な人財が、公正に活躍してイノベーションを加速する、エンゲージメントの高い組織を実現する。	→ 女性管理職比率：2026年 40%	→ 全世界での女性管理職比率35%を目標としていたが、2023年末には38.1%にまで到達。本社では、2022年から2023年で13.2%から14.7%に増加。	→ 2026年のジェンダー目標：女性管理職比率40% → 2026年の新たな包括的雇用目標：障がい者雇用比率4%（2023年：2.8%）
生物多様性と水の管理	→ 自然資本へのインパクトを最小限に抑え、持続可能性を向上する。	→ フットウェア一次生産委託先工場での1足あたりの水使用量削減率（2015年比）：2023年 20%	→ フットウェア一次生産委託先工場での1足あたりの水使用量削減率：30.2%	→ 当社の生物多様性の方針に基づいて、取り組みをさらに発展させる。
イノベーション	→ ヒューマンセントリックサイエンス（人間中心の科学）や 蓄積されたデータ、デジタル技術を活用した革新的な製品・サービスで人々の心身の健康向上に貢献する。			
製品とサービスの品質	→ 製品・サービスの安全性、品質、機能性を追求し、人々の心身の健康向上に貢献する。			
コーポレートガバナンスと開示	→ ガバナンス・ステークホルダーとの対話を強化し、財務と非財務情報を透明性高く開示する。			

WELCOME TO THE PEOPLE CHAPTER

Supporting people for a Sound Mind in a Sound Body

PEOPLE - 人と社会への貢献

チャプターハイライト

主な成果	14
ケーススタディ	15
心身の健康	17
サプライチェーンの 人権・透明性	20
ダイバーシティ、エクイティ& インクルージョン	25

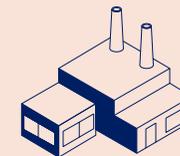


2023年に 達成したこと



コミュニティへの
資金援助・スポーツ用品
提供

1,025,836 USDを寄付



人権とサプライチェーン
の透明性

一次生産委託先工場の99%が、
アシックスサステナビリティ基準で
レベルC以上を獲得



女性リーダーの活躍

女性管理職比率：37.6%



コミュニティの拡大

OneASICS会員数：945万人

THIS YEAR'S MOST ICONIC CASE STUDY

運動における ジェンダー格差を解消するための 世界規模の研究調査プロジェクト

運動とメンタルウェルビーイングに関する研究者とのコラボレーションにより世界規模の調査が実施され洞察を明らかにしています。

- 「Move Every Mind」では、運動のジェンダー格差解消のためには何が必要かが示されました。
[P17をご参照ください](#) →
- 「MIND GAMES」では、運動がマインドスポーツのプレイヤーのパフォーマンスにどのような影響を与えるかが示されました。
[P18をご参照ください](#) →



People - 人と社会への貢献

アシックスは、誰もが一生涯、運動・スポーツに関わり、心と身体が健康で居続けられる世界の実現を目指しています。そのために、製品・サービスを通じたお客様の心身の健康、従業員一人ひとりの心身の健康、そしてサプライチェーンで働く人々の人権の尊重・心身の健康への貢献に取り組んでいます。

アシックスのパーパス（存在意義）は、世界の人々の生活の向上に貢献することです。そしてまた、このような姿勢を共有するサプライヤーやステークホルダーと協力することも目指しています。



心身の健康

スポーツの力でお客様・コミュニティ・地域社会をサポートし、明るく健康的な社会に貢献します。

At a glance 心身の健康

2023年目標

- OneASICS会員数：500万人以上
- Right to Playや各地域のNPO団体との協力を継続
- コミュニティ活動の積極的な事業への統合によるお客様との関わり強化

2023年アクション

- 人々のSound Mind, Sound Bodyを推進するための事業活動を実施 (KPI: OneASICSメンバー数)
- 3つの地域 (欧州、アメリカ、日本) においてお客様および従業員からの寄付金プログラムを実施
- Race Roster (カナダのレース登録プラットフォーム) を通じた寄付活動の実施および活動のさらなる拡大

2023年実績

- OneASICS会員数：945万人
- コミュニティへの資金援助・スポーツ用品提供額：1,025,836 USドル
- お客様、従業員からの寄付：192,560 USドル

2024年以降の取り組み

- 主要地域および従業員の社会貢献活動への参加や寄付を推進し、寄付金の開示およびエンゲージメントデータ分析の精度を継続的に向上させる
- アシックスの創業哲学である「健全な身体に健全な精神があれかし」の実現に向け、人々の心身の健康に貢献していく
- 創業哲学に基づいて、アシックスグループ全体をより積極的にコミュニティ活動に巻き込んでいく
- 社会貢献活動をより多くのお客様、地域社会の人々に伝え、ともに取り組んでいく

運動におけるジェンダー格差を解消するための研究

アシックスは、運動は誰の心と体にもポジティブな影響をもたらすと信じています。昨年実施した「ASICS State of Mind」では、運動でのジェンダー格差が明らかにされており、女性の運動量は男性よりも少なく、スポーツに参加する女性はさまざまな障壁に直面することが多いことから、運動機会を得づらいということが判明しました。

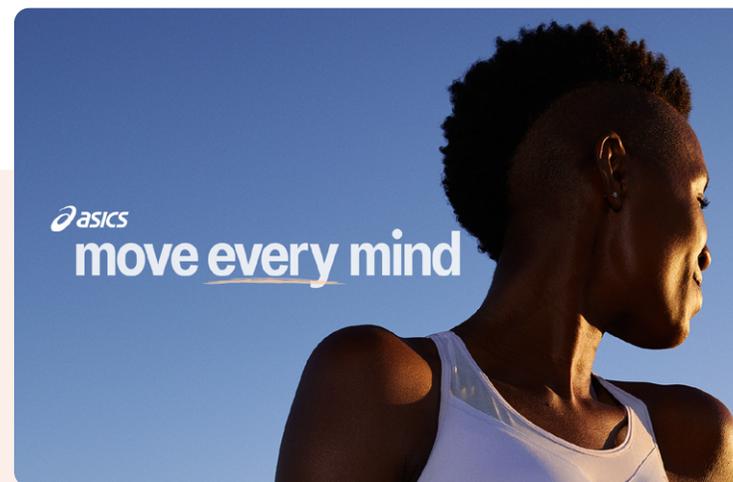
今回はこれらの内容と、スポーツにおけるジェンダーの不平などを理解しそれを解消するために、米国ケンタッキー大学のディー・ドルゴンスキー博士および英国キングス・カレッジ・ロンドンのブレンドン・スタップス博士と共同研究を行いました。「MoveEveryMind」と名付けられた、運動のジェンダー格差についての史上最大規模の世界的研究は、2023年の6月から9月まで行われました。この研究には、26のフォーカスグループと40の国の24,772人のアンケート回答者が世界各地から参加し、これらの人々の見解や経験が共有されました。

その結果によると、女性は運動すればするほど気分がよくなることがわかりました。定期的に運動しているときは幸福感が52%、自信が48%、集中力が38%増すという結果となりました。また、定期的に運動していないときは、ストレスやイライラの度合いがそれぞれ67%、80%高まりました。

また、半数以上の女性が思うように運動する機会をつくれておらず、運動による身体的、精神的メリットを享受できていないこともわかりました。

研究に参加いただいた大勢の皆さまに、お礼申し上げます。これらの結果により、世界中の女性から見た運動における課題と機会をよりよく把握できるようになり、運動におけるジェンダー格差を解消できるようになります。

[*詳しくはプレスリリースをご参照ください →](#)



「ジェンダーに対する社会の先入観という課題はありますが、運動をより身近に、包摂的に、さまざまな形態で認知されるようにすることで、自分たちはさらに運動できるようになるのだ、と女性たちは気づいています。」

これに対応するには、運動を女性とそのニーズを中心に据えたものにする必要があります。育児施設を用意し、さまざまな活動レベルに対応すること、楽しく、安価で安全であること、温かい雰囲気、競争のない快適な環境を整える必要があります。ささやかであっても、これらは大きな効果を生み出しており、私たちの調査では、世界中の数千の個人と組織がすでに変化を起こそうとしていることがわかっています。」



ディー・ドルゴンスキー博士
ケンタッキー大学
スポーツ医学研究所
助教授

運動が頭脳を研ぎ澄ませます

運動と「認知機能」の相関性について研究を行い、運動することで頭が研ぎ澄まされるなどの改善が見込めることを明らかにしました。

アシックスは、キングス・カレッジ・ロンドン勤務で、運動とメンタルヘルス研究の第一人者であるブレンドン・スタッブス博士と協力し、ユニークな実験を行いました。高い認知機能が求められるチェスやeスポーツなど、マインドスポーツを専門とするプレーヤーを世界中から招き、運動プログラムを実施しました。4か月にわたる定期的な運動の後、これらの結果はマインドアスリートのパフォーマンスにも影響し、プログラムに参加したプレーヤーの世界ランキング上昇率は75%を示しました。これらは、心と体の密接な相互作用をあらわしており、運動が「認知機能」にポジティブな影響を及ぼす可能性があることを明らかにしました。

[*詳しくはプレスリリースをご参照ください→](#)

75%

プログラムに参加者の
世界ランキング上昇率



[動画『マインドアスリート
—彼らが挑む実験ドキュメンタリー』→](#)

「私たちは、高い思考能力を備えるマインドアスリートに対する運動効果を調べたいと考えていました。今回の研究結果は、問題解決能力や集中度など、「認知機能」の改善を示しています。運動は脳内の細胞の成長を刺激し、海馬と前頭前皮質への血流を増加させます。これにより、記憶の保持、情報の処理、問題の迅速な解決が可能になります。このことは私たちにとって良い影響があると考えます。例えば、試験に向けた学習の際に集中力を高めたり、仕事でのプレゼンテーション前に注意力を高めたりするなど、運動は脳を活性化することが期待できます。」

ブレンドン・スタッブス博士のコメント



スポーツに携わる、 さまざまな人をサポート

2023年9月、アシックスは、車いすバスケットボールの鳥海連志選手と所属契約を締結しました。プロパラアスリートとの所属契約はアシックス初となります。

アシックスは、パラスポーツ企画部を発足し、創業哲学である「健全な身体に健全な精神があれかし」に則り、パラスポーツを通じた健康で持続可能な社会の実現に向け取り組んでいます。今後は、鳥海選手のもつバックグラウンドやパラアスリートの枠を超えたさまざまな活動を応援するとともに、そこから生まれる創造的なアイデアを当社の事業に生かしていきます。

[*詳しくはプレスリリースをご参照ください](#)
[*鳥海連志選手について→](#)
[*動画→](#)

「アシックスの鳥海連志です。アシックスの一員となれたことを大変うれしく思っています。プロ車いすバスケットボールプレーヤーへの転向は競技に集中できる環境をつくるだけでなく、自身にプレッシャーをかける意味もあり、このプレッシャーこそがモチベーションの源泉とも言えます。プロとして活動していくにあたり、アシックスとともに歩んでいけることはとても心強いです。今後はアシックス所属アスリートとして、多様な考えや価値観を身につけ、車いすバスケットボール界や社会に還元していきたいと思います。」

鳥海連志選手のコメント

スポーツを通じた青少年の育成

アシックスは、スポーツには心身を健やかにするだけでなく、文化の違いを乗り越え、団結力を高める力があると信じています。さまざまなニーズをもつ、さまざまな地域で事業展開しており、支援活動もその多様なニーズを反映しています。製品・サービスの創出にとどまらず、世界各地のマラソン大会やスポーツイベントへの支援、寄付、ボランティア、被災地支援を通じて、事業展開する地域社会の発展、そして人々の健康意識の向上に貢献します。2023年のコミュニティ活動では、ビジネスとの結びつきを強化して、消費者とのエンゲージメントをさらに高めるという目標を達成しました。

お客様と従業員からの寄付

アシックスは、従業員およびお客様も含め、世界各地のマラソン大会やスポーツイベントへの支援、寄付、ボランティア、被災地支援を通じて、事業展開する地域社会の発展、そして人々の健康意識の向上に貢献しています。

2023年には、総額で192,560 USドルがeコマースなどを通じて寄付されました。またアシックスからは、合計1,025,836 USドルが寄付されました。

合計：コミュニティへの資金援助・スポーツ用品提供額

1,025,836 USドル

お客様と従業員からの寄付

192,560 USドル

[*詳しくはホームページ「お客様&コミュニティ」をご参照ください →](#)



「遊びやスポーツを通して子どもたちを教育するというアプローチは、活動に参加した後も、学んだことを忘れず、知識を他の事柄に応用できるようになります。このアプローチはチームワークを促進し、人間関係などのスキルを構築します。このプロジェクトに参加することで育まれた教師と生徒の関係は、親密なものとなっています。」

ガーナプログラムのトレーナー

国際NPO 「Right To Play」との協働 スポーツを通じて若者を支援

国際NPO「Right To Play (以下RTP)」と協力し、東アフリカのいくつかの国で、若者の心身の健康を支援する取り組みを引き続きおこないました。RTPは、困難な状況にいる子どもたちが希望をもって生きられるよう、スポーツと遊びのプログラムを通して、世界の子どもたちを支援する活動を行っています。

プロジェクトは3年目を迎え、ブルンジ、エチオピア、ウガンダおよびタンザニアといった東アフリカでの既存の活動に加え、ガーナとセネガルでも新たに支援を開始しました。

2023年は、2万5,000人の新入教員と新人コーチへの研修が実現しました。このプロジェクトへは5万人以上が参加をし、累計では7万5,000人が参加をしています。

2024年も支援を継続し、子どもたちが遊びやスポーツに参加することで心身ともに健康になり生きていくために必要なスキルを身につけ、自らが平和な地域社会を築いていけるようになることを目指します。

透明で倫理的なサプライチェーンを構築

アシックスは20カ国以上200以上の委託先工場からなるグローバルなバリューチェーンを構築しています。当社は、バリューチェーン全体の人々が安全で、倫理的な労働条件を得られるようにするため、これらの委託先工場を対象にCSR監査を実施し、改善を行うことで当社のサステナビリティ基準を満たすようにしています。

At a glance サプライチェーンの人権・透明性

2023年目標

- アシックスサステナビリティ基準を満たす一次生産委託先工場の割合 (%) : 100%
- アシックス基準B以上を満たす一次生産委託先戦略パートナー工場の割合 (%) : 100%
- 委託先工場におけるセルフガバナンスの範囲拡大
- アシックス基準C以上を満たす主要二次生産委託先工場の割合 (%) : 100%

2023年アクション

- 監査指標の導入、マネジメントシステムの開発、戦略工場がアシックス基準を満たしていることの保証およびサプライヤーと労働組合間の対話の促進 [P20参照](#) →
- 製品、素材および工場管理のためのトレーサビリティプラットフォームの準備および選定 [P24参照](#) →

2023年実績

- アシックス基準以上の一次生産委託先工場の割合 (%) : 99%以上
- アシックス基準B以上を満たす一次生産委託先戦略パートナー工場の割合 (%) : 80%以上
- Higg FSLMモジュールの効果的な活用を通じて、委託先工場におけるセルフアセスメントを継続
- アシックス基準C以上を満たす主要二次生産委託先工場の割合 (%) : 100%

2024年以降の取り組み

- サプライヤー評価システム・評価体制の最適化
- サプライチェーンにおける人権デュー・ディリジェンスおよびプログラムの強化
- データ分析・活用を通じたリスクマネジメントの強化



サプライチェーンでの人権に対するアプローチ

人権へのアプローチを周知させるために、アシックスのバリューチェーンで最も多く起こっている、重大な人権課題を明らかにすることを目的に、社内リスク評価を行っています。その結果、当社では注力すべき人権課題の優先順位付けが可能となりました。

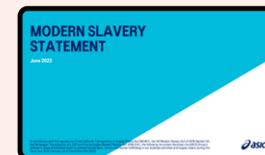
アシックスグローバル行動規範やサプライヤー行動規範といった方針およびガイドラインは、当社従業員、バリューチェーンの労働者、当社の全世界のお客様の基本的な人権を保護するための指針となっています。当社のすべてのサプライヤーは、アシックスサプライヤー行動規範への署名が義務づけられています。

*詳しくはホームページ「ビジネスパートナー管理方針（サプライヤー向け行動規範）」をご参照ください →

従業員は重要なステークホルダーであり、当社の人権および倫理的な労働条件についての方針およびデュー・ディリジェンスの対象となっています。アシックスのグローバル行動規範は、当社活動の中核的な指針となっています。

2023年、当社は、従業員保護の目的で、日本でカスタマーハラスメントに対する基本方針を策定し、相談スタッフにその方針についての研修を行いました。

人権尊重の一環として、アシックスは、その形態を問わず、バリューチェーン全体における現代奴隷の課題に取り組んでいます。当社では毎年、ウェブサイトにおいて、アシックスグループ現代奴隷と透明性に関する声明を公表しています。



*詳しくはこちらをご参照ください（英語）「アシックスグループ現代奴隷と透明性に関する声明」 →

アシックス人権方針と委員会

当社のガバナンス体制には、人権に関する方針が組み入れられています。アシックスは、調査と社内外のステークホルダーとの協働のプロセスを経て、2022年にアシックス人権方針を策定しました。株式会社アシックス、その子会社および関連会社に適用されるこの方針では、人権デュー・ディリジェンスの要素、優先領域などが記されています。人権委員会は、リスクマネジメント委員会、経営会議

および取締役会の監督下にあり、人権の諸課題についての監督および助言を行います。

[*詳しくはホームページ「アシックス人権方針」をご参照ください→](#)

[*詳しくはホームページ「人権尊重」をご参照ください→](#)

人権リスクの低減

アシックスは、リスクや課題を特定し、その早期解決を目指しています。

中期経営計画2026の一環として、当社は、バリューチェーン全体での人権デュー・ディリジェンスの実効性を高めるための取り組みを行っています。2024年のアクションプランには、サプライチェーンでの人権管理を向上させるための3つの方法が示されています。

1. サプライヤーの評価およびモニタリング（監査を含む）のためのシステムを最適化する
2. サプライチェーンでの人権デュー・ディリジェンスとプログラムを強化する
3. データ分析および活用によって、リスクマネジメントを強化する

安全で倫理的な労働条件の実現

アシックスは、サプライチェーン上で働く人々が安全で倫理的な労働環境で働けることを目指しています。これを実現することにより、労働関連の災害や事故、健康被害を防ぎ、作業日数の損失を回避することにつながります。

2023年、管理労働安全衛生・人権面のマネジメントシステムのガイダンスを編集し、一部のフットウェアの工場への展開を開始しました。

アシックス苦情処理メカニズム

苦情処理メカニズムを通じて、当社は、自社の業務およびサプライチェーンでの強制労働、児童労働、ハラスメント、賃金または労働時間などについての問題や懸念点を確認することができます。

2023年には、委託先工場の労働組合を通じて5件の事例が報告されました。そのうちの4件の事例は結社の自由に関するものであり、1件は雇用問題に関するものでした。こうした事例への対処としてアシックスは、工場と労働組合間での建設的な対話および相互理解を推奨しました。これら5件の事例は、良好な改善案により無事解決しました。

パートナー工場で苦情処理メカニズムの実効性をより高めるために、当社は現在、外部のサービスプロバイダーとの連携を行っています。当社の取り組みについての詳しい情報は、[現代奴隷に関する声明をご参照ください。](#)

責任ある購買慣行

アシックスの調達活動はバリューチェーン全体のサプライヤーに影響を及ぼします。そのため、当社は責任ある購買慣行が実現されるよう努めています。事業部門およびサステナビリティ部門が密接に協力し、当社の責任ある購買慣行を推進しています。

これは、以下の5つのエリアに焦点を当てています。

- 計画・フォーキャスト
- デザイン・開発
- 価格交渉
- ソーシング発注
- 支払い

2023年、当社は、アシックスウェブサイトには支払と支払期間に関する事項を追加しました。アシックスは製造委託契約に記載されている支払条件を遵守するように努めています。フットウェア工場への標準的な最大支払期間は75日間となっています（2023年10月現在）。

[*詳しくはホームページ「デュー・ディリジェンス」をご参照ください→](#)

2023年のKnowTheChainアパレル・フットウェア部門ベンチマークにおいて、アシックスは購買慣行のテーマで最高得点を獲得し、「購買慣行に関する2つの定量的データポイントを開示しているベンチマーク対象企業（全体のわずか3%）のうちの1社」となりました。

[*詳しくはこちらをご参照ください（英語）](#)

[The KnowTheChain 2023 Apparel & Footwear Benchmark Findings Report →](#)



サプライチェーンのモニタリングを通じて課題に対処

当社は、サプライヤーがアシックスの関連方針と基準、並びに関係の法律および規制を守ることを求めています。そのため、当社は定期的な監査によってサプライヤーをモニタリングしています。

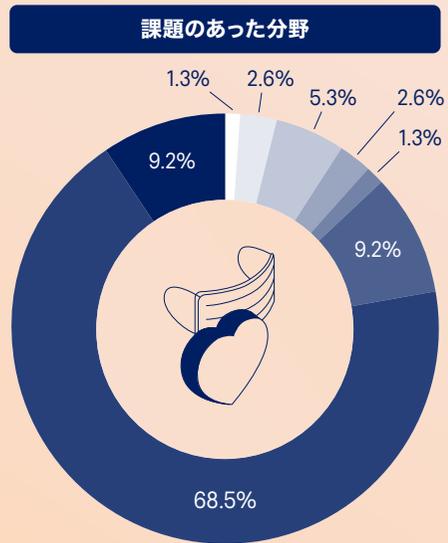
定期評価により、サプライヤーの課題を認識することで以下が可能となります。

1. 問題の重大さと発生可能性についての評価
2. 適切な行動 (将来の注文のレビュー、第三者による調査の実施、あるいは正式な警告書の発行などが含まれる可能性あり)
 - a. 軽微な課題: 3か月以内の改善。サプライヤーは正しい対策を取ることが望まれる
 - b. トレーニングおよびリソースを含む支援の提供
3. 違反が深刻または繰り返される場合には、取引の終了

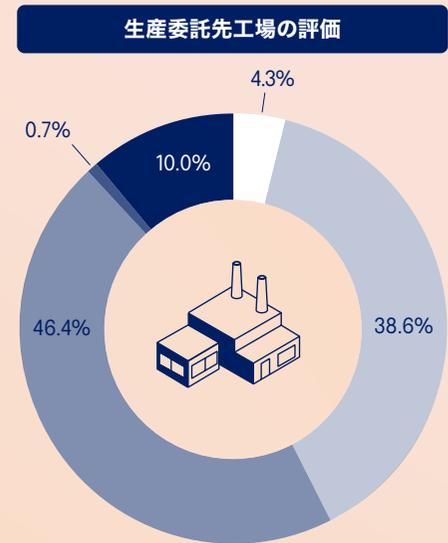
業界との連携をより確実にするため、デュー・ディリジェンスのテクノロジーを活用し、モニタリングをより効率的かつ効果的に行うこと、監視活動範囲を拡大することを目指しています。これにより、当社は工場との協働に注力することができ、工場での持続可能な管理システムの構築が可能となります。

アシックスは2004年に製造委託先工場の監査を開始しました。現在、世界20カ国以上の200以上の委託先工場で生産されています。当初はアシックスサステナビリティ基準順守率の向上を目指し、毎年多くの工場を監査しています。その結果、99%以上の主要一次生産委託先工場が当社基準に到達するようになりました。2022年からは、責任ある調達徹底、トレーサビリティと透明性の確保の観点から、新規工場と主力工場の監査のほか、これまでリスクレベルを勘案して監査への注力を抑えていた低リスク工場のより精度の高い実態把握に努めています。今後は、現在の水準を維持すべく、工場の自律的なサステナビリティ経営 (およびCSR管理) の支援 (するためのマネジメントシステムの普及を推進) にも力を入れていきます。

※工場数は2024年1月末時点



- × 強制労働
- × 児童労働
- × 虐待&ハラスメント
- × 差別
- × 賃金



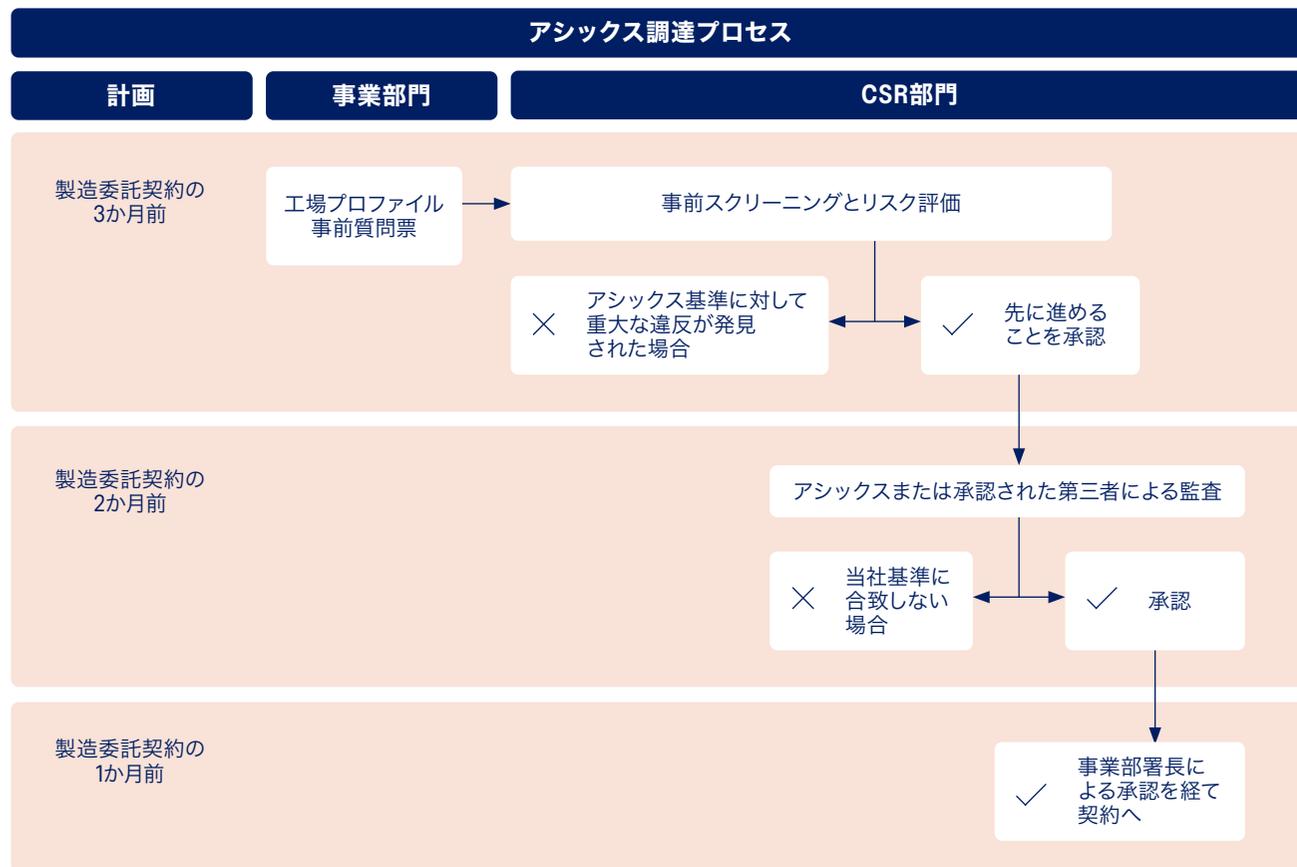
残りの生産委託先工場は、ILOの「Better Work or Better Factories Cambodia」工場改善プログラムに加盟。このプログラムでは、これらの工場の労働条件が評価され、改善方法についての指針が工場に提供されます。
※C評価以上がアシックスサステナビリティ基準を満たしています。

年	内部監査	委託監査	パートナー監査	合計
2023	6	55	10	71
2022	7	18	11	36
2021	1	21	12	34
2020	16	19	17	52
2019	31	57	29	116
2018	23	46	24	93
2017	66	31	16	113

調達前承認プロセス

サプライヤー候補との取引を検討する前に、事前スクリーニングとリスク評価を実施しています。アシックスでは、社内で承認された国のみから調達を行うことで、リスクの低減に努めています。このスクリーニングが機能するよう、国ごとのリスクを定期的に見直しています。

調達前承認プロセスを効率化するため、2023年、この事前スクリーニングのプロセスをより迅速かつ安価で行う新たなプロセスを開発しました。



外部評価：KnowTheChain

KnowTheChainの2023年アパレル・フットウェア部門ベンチマークにおいて、アシックスは、前回の2021年の評価より4ランク上がり、65社中の12位でした。また、業界平均の21点を大きく上回る40点を獲得し、日本企業では第2位でした。

KnowTheChainベンチマークはサプライチェーン上の人権リスク低減の取り組みの成熟度合いを評価するものであるとともに、改善の余地を明らかにするものです。外部からの評価は、サプライチェーンで働く人々の労働環境の継続的な改善を望む当社にとって、大いに有意義なものです。



ステークホルダーとのコラボレーション

ステークホルダーとの協働はアシックスのサステナビリティに欠かせない要素となっています。労働組合、NGOおよびさまざまなステークホルダーグループとのエンゲージメントにより、自社の活動と業界のベストプラクティスに整合性を持たせられるようになります。このような協働により方針と慣行を改善できるようになります。このような協働により方針と慣行を改善できるようになります。このような協働により方針と慣行を改善できるようになります。このような協働により方針と慣行を改善できるようになります。



SLCP

アシックスはSLCP (Social & Labor Convergence Program) に加盟しています。このプログラムは、世界のサプライチェーンの労働条件についての正確なデータを得るためのツールとなっています。

米国アパレル・フットウエア協会 (AAFA)

アシックスはAAFAとの共同イニシアティブに参画しており、メンバーおよび同業者との協力を通じて業界慣行を発展させることを目指しています。

Cascale (旧サステナブル・アパレル連合 (SAC))

一次生産委託先および二次生産委託先の環境パフォーマンス管理を把握するためのレーティングとしてCascaleのHigg (Higg FEM) スコアを採用しています。

JP-MIRAI

外国人労働者を含む人々の、日本での安全かつ快適な生活を支援するJP-MIRAIの会員です。

ベターコットン (BC)

2019年より、綿花生産地の環境、農家、経済の計量可能な継続的な改革を推進する団体、BCの会員です。

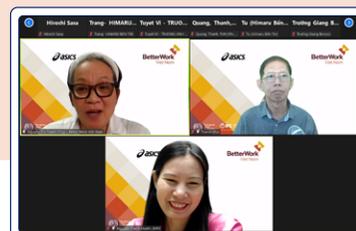
KnowTheChainワークショップ

アシックスはKnowTheChainワークショップを東京で開催しました。このワークショップには、テクノロジー、食品・飲料、アパレル・フットウエア業界の企業が参加しました。参加者は、トレーサビリティ、サプライチェーンの透明性、リスクの評価および低減といったテーマで、セクターを超えて協働しました。

UNDPビジネスと人権アカデミー

国連開発計画 (UNDP) がアシックスとその他大手ブランドを招き、人権とデュー・ディリジェンス、並びにベストプラクティスの共有について話し合う円卓会議を開催しました。

[*詳しくはこちらをご参照ください \(英語\) →](#)



Better Work Vietnamとのセミナー

アシックスサプライヤー向けにBetter Work Vietnamが、工場における効果的なマネジメントシステムの構築や、強制労働を防止するための方法をテーマとしたセミナーを開催しました。

サプライチェーンの透明性とトレーサビリティを高める

サプライチェーン全体のリスク状況を把握し改善するには、透明性がきわめて重要となります。2017年より、当社は工場リストの開示および定期的な更新を行っており、このリストには、20カ国以上の一次生産委託先、主要な二次生産委託先が掲載されています。中期経営計画2026の一環として、サプライヤーのデータとサプライチェーンに関する情報開示を強化し、透明性の向上を目指しています。2023年には、自社のトレーサビリティシステムをデジタル化するため、システムベンダーと協業し、原材料の調達から製造までを通じて、材料をより効率的に追跡できるようにしました。このシステムは2024年からの本格稼働を目指しています。

この新しいシステムにより、サプライヤーデータの信頼性が高まり、排出やりサイクル、人権リスクや労働の社会問題に至るまで、多様な事柄への影響をより詳しく報告できるようになります。

ダイバーシティ、 エクイティ&インクルージョン

アシックスグループは、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンビジョン「One Team, Stronger Together」を策定し、さまざまな価値観や視点を持つ人たちがチームとして、共に議論することを積極的に推進します。多様な人財が一体となって創造的なアイデアを生み出し続け、お客様に新たな価値を提供するために挑戦していきます。

私たちは、創業以来、“健全な身体に健全な精神があれかし”を表す“Sound Mind, Sound Body”の実現を目指して事業活動を推進してきました。創業哲学の実現には、あらゆる角度から世界を見ることができるよう、多様な価値観やアイデアを持つチームが必要です。

私たちはこれまで以上に、一人ひとりの状況に合わせて成功に繋がるリソースや機会を提供し、社会におけるポジティブな影響力を拡

大、深化することを目指しています。

人種、民族、性別、年齢、宗教、障がい、性的指向、性自認などの違いを受け入れ、活かすことにコミットし、多様性を尊重し高め合うチームとしてイノベーションを創出し、真に人々のよりよいライフスタイルを実現します。

2023年、アシックスは日本の「PRIDE指標」において最高位である「ゴールド」を5年連続で受賞しました。

[当社の従業員の詳しい概要についてP44をご参照ください](#) →

従業員への還元 賞与の取り組み

従業員向けの施策として、アシックスは2024年度よりプロフィットシェア型賞与を導入いたします。原則的に資本コストを超えている利益の一部がすべての従業員に配分される



制度です。従業員が当事者意識を持って資本コストを理解できるようになるとともに、企業としての利益を従業員に還元できるようにしたいと考えています。

また、中期経営計画2023が大きな成功を取めたという認識のもと、全世界の従業員に一時金を支給しました。

女性活躍推進への取り組み

2026年までに全世界の女性管理職の比率を40%以上とすることを目標に、女性管理職の経営に対する意識を高めることを目的とした研修プログラムの導入などを行っています。

各地域で、目標を達成するための具体的な活動を記した詳細なアクションプランが作成されています。それらの活動には、より包摂的な採用プロセス、管理者向けトレーニングとキャリアサポート、並びに女性従業員が相互に知り合える機会などが含まれています。グローバルDE&Iステアリングコミッティは、四半期ごとに全体の進捗状況进行评估し、目標達成にむけて取り組んでいます。

At a glance ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン

2023年目標

→ 多様性の推進：グローバル全体においては女性管理職比率向上、日本においては障がいを持つ人財の雇用拡大に焦点を当てる。

2023年アクション

→ すべての地域で地域目標達成のためのアクションプランを作成した。進捗はグローバルDE&Iステアリングコミッティにより管理された。また本社において、管理職の女性を対象としたキャリアアップトレーニング、全管理職を対象にコーチングをテーマとしたトレーニングを実施した。
→ 障がいを持つ人財の雇用促進およびサポートにあたって、雇用目標を設定し、管理職向けのスキルセットトレーニングを実施した。

2023年実績

→ 中期経営計画2023の中で当社はグローバルでの女性管理職比率35%を目標に掲げた。この目標は2023年内に達成し、比率は38.1%に上昇した。本社においては、女性管理職比率が13.2% (2022) から14.7% (2023) に上昇し、女性取締役の比率は22.2%となった。
→ アシックス (本社およびアシックスジャパン) の障がい者雇用比率は2.8%である (2023年末時点)。

2024年以降の取り組み

→ 各地域ごとに2026年のジェンダー目標を設定し、グローバル全体での女性管理職比率40%以上を目指す。
→ 2026年の障がい者雇用比率目標を設定する：全従業員の4%
→ グローバル全体において障がいを持つ人財の雇用を拡大し、労働環境の改善を促進する。



ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョンな採用

人財採用は、多様性に満ちた環境を構築するためのパワフルなツールです。アシックスは年間を通じて、新卒者、中途採用者、および障がいのある人々を採用しています。

新卒社員の採用においては男女比を5:5にすることを目指しています。

→ 新卒者

グローバルレベルでビジネスを牽引する人財を採用し、中長期的な計画のもとで育成しています。当社はリーダーシップを開発するプログラムを設計するとともに、デジタルツールを活用し、海外で学ぶ多様な学生とアクセスできる環境を用意しています。選考プロセスをオンラインで実施しているため、志望者は居住する場所に関わらず応募することが可能です。

→ 中途採用

当社事業に直ちに貢献できる、プロフェッショナルなスキルと経験を有する人財を求めています。

入社後には研修が用意されています。さらに、社宅の提供やフレックス制の導入など、柔軟な働き方ができる環境を整えています。

2023年には、パラアスリートが入社後もアスリートとして活動し、引退後も仕事で会社に貢献できるようにガイドラインを改定しました。

人財育成のための様々な研修

アシックスは、従業員に対し定期的な1on1を行っています。従業員は管理職と面談を行い、自身のキャリア開発計画と必要なスキルの習得について相互に確認を行います。この面談に基づいて、従業員に対しふさわしい研修機会が提案されます。たとえば、管理職は毎年、人事部によるタレントマネジメントについての研修を受けることになっています。

グローバルでビジネスをリードできる人財を、戦略的かつ早期に育成することを目的としたASICS Academy (次世代のリーダー育成・選抜プログラム) を導入しています。次世代リーダーとして選ばれた社員を対象に、経営知識や戦略思考を学ぶプログラムを実施しています。また、習得した知識を業務の中で活用できるようにキャリア面談を通してキャリアパスの実現につなげています。また、学習を望む従業員には、eラーニングのプラットフォームを用意し自身のキャリアを改めて考える機会を提供しています。また、従業員向けに、コンプライアンスおよびウェルビーイングといったトピックについて、eラーニングなどを通じて定期研修を行いました。

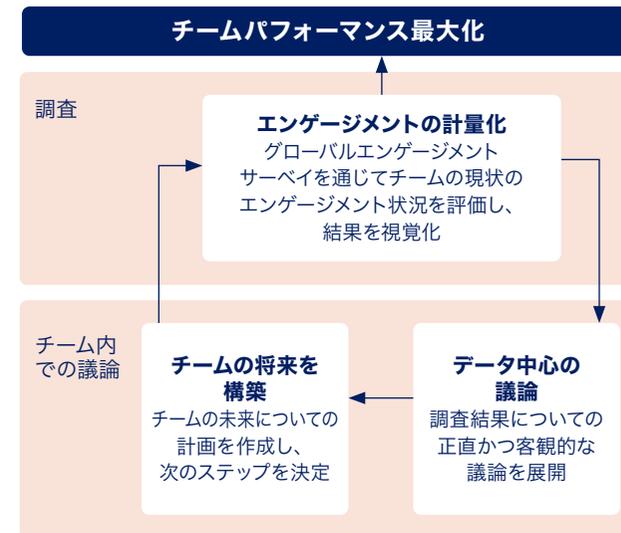
従業員エンゲージメント

アシックスはグローバルエンゲージメントサーベイを通じ、従業員のエンゲージメント状況を数値化しています。

回答率は、昨年に比べて10%高くなり、エンゲージメントスコアは同時期比較で2%高くなりました。

調査後は結果を分析し、それぞれのチームまたは部署に提供されます。2023年は、従業員のために「グローバルエンゲージメントサイト」を立ち上げました。円滑な対話や、アクションプランの策定に役立てられます。

定期的に調査を実施することで、社員一人ひとりが生き生きと働けているか、その職場改善の進捗を確認しています。



WELCOME TO THE PLANET CHAPTER

A Sound Mind in a Sound Body needs a Sound Earth

PLANET - 環境への配慮

CHAPTER HIGHLIGHT

主な実績	28
ケーススタディ	29
気候変動への対応	30
循環型ビジネス	35
生物多様性と水の管理	38
製品とサービスの品質	40



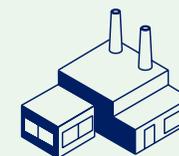
2023年に達成したこと



29.8%
事業所でのCO₂排出量
削減率
(2015年比)



50,253人
「Run for Reforestation
Challenge」を完走



21.6%
サプライチェーンでの
CO₂排出量削減率
(2015年比)



29.8%
事業所での再生可能
エネルギー由来の
電力比率



フットウェアの戦略的
一次生産委託工場の80%が
1.5°C水準の削減目標を
設定・開示



フットウェアの戦略的
一次生産委託工場の90%が
再生可能エネルギー調達
計画を策定・順次導入

THIS YEAR'S MOST ICONIC CASE STUDY

温室効果ガス排出量世界最少 スニーカーを発売*

温室効果ガス排出量最少スニーカー
「GEL-LYTE™ III CM 1.95」を発売。

市販スニーカーで最少となる一足あたり1.95kg
CO₂eのカーボンフットプリントを実現しました。

[P33をご参照ください →](#)

* 2023年9月時点、製品ライフサイクルにおける温室効果
ガス排出量が開示されている市販シューズを対象とし
たデータに基づいています。



Well-beingのための 健やかな地球環境

アシックスは、「Anima Sana in Corpore Sano (健全な身体に健全な精神があれかし)」を創業哲学に掲げ、世界中のすべての人々の将来世代に続く心身の健康に貢献することを使命としています。そのためには、地球環境も健やかでなければならないと考え、2050年までに温室効果ガスの排出を実質ゼロにすることを目指し、循環型モノづくりを進めるなど、環境と社会に配慮した事業活動を続けています。

2023年には、温室効果ガス排出量最少スニーカー「GEL-LYTE™ III CM 1.95」を発売しました※1。また、同製品やランニングシューズ

「GEL-KAYANO™ 30」で、カーボンフットプリントの表示も開始し、気候変動に対する取り組みとともに、トレーサビリティと透明性の向上に向けた一歩として進めています。

また2023年は中期経営計画2026の策定に従い、生物多様性に関する方針を新たに追加しました。バリューチェーンを通じた循環型ビジネスモデルへの転換と、生物多様性への取り組みも進めています。

※1: 2023年9月時点、製品ライフサイクルにおける温室効果ガス排出量が開示されている市販シューズを対象としたデータに基づいています。



At a glance 気候変動への取り組み

2023年の目標

- 事業所におけるCO₂排出量削減率 (基準年: 2015年): 2030年までに63%
- サプライチェーンにおけるCO₂排出量削減率 (基準年: 2015年): 2030年までに63%
- 事業所における再生可能エネルギー由来の電力割合: 2030年までに100%

2023年のアクション

- 「GEL-LYTE™ III CM 1.95」を発売
- 製品カーボンフットプリント表示の導入
- フットウェアの戦略的一次生産委託工場の80%が、1.5°C水準の削減目標を設定および開示し、90%が具体的な再生可能エネルギー調達計画を策定・順次導入

2023年の成果

- 事業所におけるCO₂排出量削減率 (基準年: 2015年): 29.8%
- サプライチェーンにおけるCO₂排出量削減率 (基準年: 2015年): 21.6%
- 事業所における再生可能電力の割合: 29.8%

2024年の計画

- 排出量の多い施設を中心に、再生可能エネルギー由来の電力比率を継続して拡大
- 「GEL-LYTE™ III CM 1.95」で得られた知見をもとに、カーボンフットプリント表示の品目・カテゴリーを拡大
- フットウェアの戦略的一次生産委託工場の再生可能エネルギー調達を拡大

2050年ネットゼロに向けて

アシックスは、2050年に温室効果ガスの排出を実質ゼロにするという目標を掲げており、バリューチェーン全体でCO₂排出量を削減するための目標やアクションを設定しています。

サステナビリティのガバナンス体制

気候変動に関連する目標に対する実績は、執行役員の報酬を決定する要素です。サステナビリティ委員会では、目標達成のための年次行動計画が各部門の目標と合うように調整され、目標に盛り込まれます。担当する執行役員は各行動の進捗状況を報告し、その実績が評価されて執行役員の報酬に反映されます。

このようなアプローチの結果、執行役員は、目標の進捗を確認し、各部門の戦略へのさらなる落とし込み、リソースの配分、主要ステークホルダーとの積極的対話などの対応を行います。

[P9をご参照ください](#) →

気候変動シナリオの分析

アシックスはスポーツメーカーとして初めて気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 提言への賛同を表明し、それに即した情報開示を積極的に進めています。

シナリオ分析に基づくリスクと機会を特定し、そのインパクト・対応策を分析し、事業戦略へ反映しています。

[P42をご参照ください](#) →

私たちは気候危機の緊急性を認識した上で、2050年までにネットゼロを達成することを表明しました。また、このシナリオ分析で特定されたリスクと機会に基づき、2030年に向けた気候移行計画を策定中です。この計画には以下の目標が含まれます。

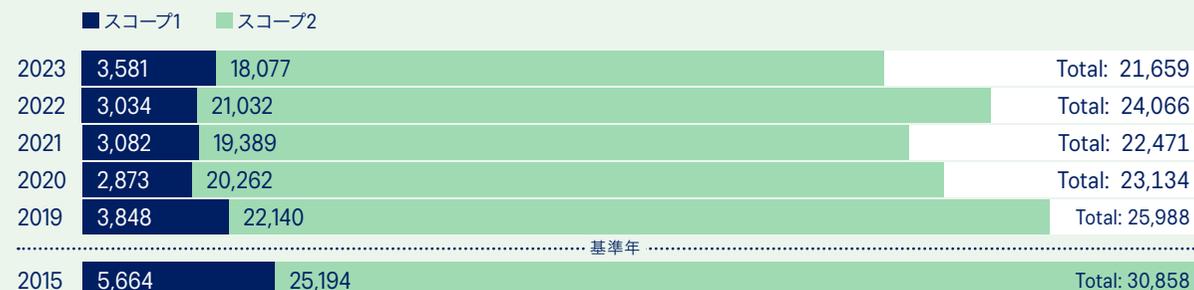
- CO₂排出が少ない製品・材料の開発 (2030年までに100%再生ポリエステル材へ)
- 生産工場における再生可能エネルギーへの切り替え (一次生産委託先工場での再生可能エネルギー由来の電力比率を85%に)
- 省エネルギー (一次生産委託先工場での2015年比50%の消費エネルギー削減)

フトウエアの戦略的一次生産委託先工場の多くは、2023年に再生可能エネルギーの調達を開始し、2030年までにその調達率を85%とするための取り組みを開始しました。2023年には、計9,863MWhの再生可能エネルギーを調達しました。また、2030年までに消費エネルギーを50%削減することを目標に、省エネルギー計画にも取り組んでいます。

数字で見る気候変動への対応

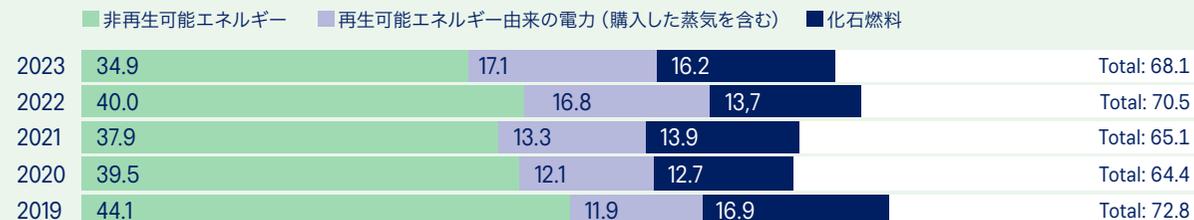
オフィス、ショールーム、物流センター、生産子会社、直営店を含むアシックスグループのデータです。社有車・リース車からの排出量も含まれます。

事業所からのCO₂排出量 (単位:トン)



スコープ1の数値は、2006 IPCCガイドライン (商業施設) に基づく係数を使用して算出。ブラジルの社有車/リース車からの影響は、2015年のDEFRAデータに基づく係数を使用して算出。スコープ2の数値は、IEAの2016年燃料燃焼によるCO₂排出に基づく係数を使用して算出。サイトのエネルギー消費量が入手できない場合、次の式により算出。(1平方メートルあたりの推定エネルギー消費量) × (サイト面積) × (CO₂排出係数)。

種類別エネルギー使用量 (GWh)



サイトのエネルギー消費量が入手できない場合、次の式により算出:
(各種サイトの推定エネルギー消費量) × (サイトの面積) × (各単位からGWhへの換算係数)。

2023年のスコープ3 CO₂排出量

スコープ3カテゴリ	CO ₂ 排出量 (単位:トン)	%	スコープ
1. 購入した製品・サービス	596,452	82.8	フットウェア製造 (Tier 1) とアシックスグループのフットウェア材料、アパレル・エクイップメント、マーケティングと販売 (計算方法*)
2. 資本財	18,452	2.6	アシックスグループ
3. スコープ1,2に含まれない燃料およびエネルギー活動	894	0.1	アシックスグループ
4. 輸送、配送 (上流)	48,433	6.7	カテゴリ4はフットウェア事業の船舶輸送と航空輸送のデータ、トラック/鉄道輸送による港から配送センターへの輸送 (欧州・米州・日本) および配送センターから顧客への輸送 (日本) のデータです。
5. 事業から出る廃棄物	31	0.0	アシックスグループ
6. 出張	4,465	0.6	アシックスグループ
7. 従業員の通勤	416	0.1	日本国内のアシックスグループ
8. リース資産 (上流)	-	-	-
9. 輸送、配送 (下流)	6,531	0.9	アシックスグループ
10. 販売した製品の加工	-	-	-
11. 販売した製品の使用	16,275	2.3	アシックスグループ
12. 販売した製品の廃棄	28,465	4.0	アシックスグループ
13. リース資産 (下流)	-	-	-
14. フランチャイズ	-	-	-
15. 投資	-	-	-
合計	720,414	100	

※1 計算方法:

カテゴリ1 フットウェア Tier1:
 (サプライヤーのエネルギー消費量) × (サプライヤーのアシックス生産量割合) × (各エネルギー別の排出係数)。
 フットウェア材料:
 (生産量) × (過去のLCA調査による材料の排出係数)。

アパレル Tier1:
 (生産量) × (過去のLCA調査によるTier1の排出係数)。
 アパレル材料:
 (生産量) × (過去のLCA調査による材料の排出係数)。
 機器、マーケティング、販売:
 (購入財・役務の価格) × (購入財・役務の排出係数※2)。

※2 計算は、2015年3月の温室効果ガス排出量等の算定のための排出原単位データベース (ver.2.2) に基づく排出係数を使用

バリューチェーン全体の気候変動への取り組み

バリューチェーン全体で気候変動への取り組みを行うにあたり、サプライヤーとの協働は不可欠です。2023年には、フットウェアの戦略的一次生産委託先工場がグリーン調達方針の要件を達成できるよう対話とサポートをし、80%が1.5°C水準の削減目標を設定および開示し、90%が再生可能エネルギー調達計画を策定、順次導入しています。ベトナムとインドネシアのサプライヤー3社は、屋上にソーラーパネルを設置し、再生可能エネルギーを調達、その他のサプライヤーでも、グリーン電力証書などが導入されました。ベトナムにおける再生可能エネルギー推進の重要施策である直接電力購入契約 (DPPA) の実現に向け、ONE-VALUEとDPPA需要調査に協力しました。サプライヤーと連携しながらバリューチェーン全体で循環型ビジネスモデルへの移行に取り組んでいます。

※ONE-VALUEは、経済産業省より「ASEAN各国の新制度などを活用した需要家主導の再エネ投資促進事業」を受託し、DPPAの需要調査を行っています。

[*詳しくはプレスリリースをご参照ください →](#)

サステナビリティに関する 社外からの評価・受賞実績

気候変動対策へのコミットメントを発信

アシックスは「Sustainable Japan Award 2023」（主催：株式会社ジャパンタイムズ、後援：経済産業省、環境省、金融庁）において、最高賞である最優秀賞を受賞しました。同賞は「日本を多角的に世界に発信しつつ、持続可能な生き方を目指す団体や地域の取り組みを紹介する」もので、気候変動への取り組みとSBTイニシアチブへのコミットメント、排出量削減のための製品開発、グリーン調達方針、循環型ビジネスモデルへの取り組みなどが評価されました。

thejapanimes

Sustainable Japan Award

2023

[*詳しくはこちらをご参照ください →](#)



また、「気候変動アクション環境大臣表彰」を受賞しました。同賞は、環境省が、気候変動の緩和および気候変動への適応に顕著な功績のあった個人または団体に対し、その功績をたたえるために表彰を行う

もので、「GEL-LYTE™ III CM 1.95」の開発および発売、カーボンフットプリント表示の開始などの気候変動への取り組みが評価されました。

[*詳しくはプレスリリースをご参照ください →](#)



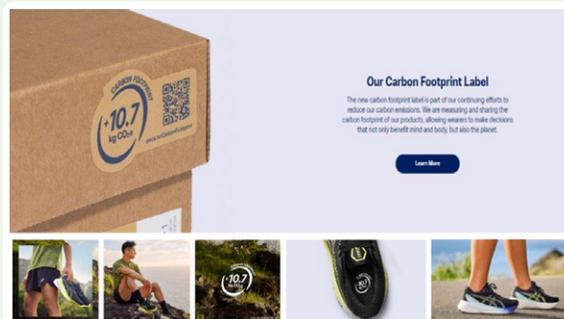
COP28では、G20議長国であるインドとG7議長国である日本が共同開催したジャパンパビリオンセミナーにて、「脱炭素で豊かな暮らし（ウェルビーイング）のためのセミナー」に、統括部長の吉川が登壇しました。

[セミナーについて →](#)
[動画 →](#)

製品のカーボンフットプリント表示

2023年夏に発売した「GEL-KAYANO™ 30」などの製品に、材料調達から廃棄における温室効果ガス排出量（カーボンフットプリント）を表示しています。第三者による認証を受けた計算手法により、何百ものデータを集計して数値を算出し、その計算手法も開示しています。

2011年にマサチューセッツ工科大学と共同でランニングシューズのライフサイクルアセスメントを実施し、「GEL-KAYANO™ 17」のカーボンフットプリントが約14kgCO₂eであることが明らかになりました。今回は、計算範囲を拡大するなど計算手法を改善し（詳細は当社Webサイトでご覧いただけます）、その手法が国際規格に準じていることの第三者認証を取得しました。



アシックスは、この改善された計算手法により、当社のシューズおよびアパレル製品のカーボンフットプリントの表示に継続的に取り組んでいきます。これにより、ライフサイクルのどの段階でCO₂排出量が多く発生しているかを特定し削減対策を立案するだけでなく、CO₂排出量の計算方法について透明性を高め、継続的に排出削減に取り組むことで、サプライチェーンでのCO₂排出量の削減目標達成を推進します。

また、製品のカーボンフットプリントを表示することにより、透明性を高め、CO₂排出量削減への知見を深めるとともに、お客様と一緒に気候変動へのアクションを取っていきます。

[*詳しくはホームページ「カーボンフットプリント表示を開始」をご参照ください →](#)

地球環境のための製品イノベーション

アシックスは、バリューチェーン全体で一方通行型のビジネスモデルから循環型ビジネスモデルへの変革を進めています。製品の販売だけに頼る事業成長ではなく、バーチャルでのマラソン大会の開催や、eコマースやリテール、フィットネスアプリで集積した顧客データの一元管理を行い、よりきめ細かい顧客体験の提供を随時展開します。デジタル技術の活用で一人ひとりに合った製品やサービスを提供し、使う資源の削減と製品寿命の延伸につなげます。

イノベーションを通じて、製品の環境への影響を最小限に抑える取り組みを行っており、2023年の製品のハイライトは「GEL-LYTE™ III CM 1.95」と「GEL-KAYANO™ 30」です。

10年にわたる研究開発の末、2022年に温室効果ガス排出量最少スニーカー「GEL-LYTE™ III CM 1.95」を発表し、2023年9月に販売しました。

[*詳しくはプレスリリースをご参照ください →](#)



お客様との気候変動への取り組み 『Run for Reforestation Challenge』

気候変動への取り組みの一環として、お客様がアシックスから提供しているフィットネス・トラッキング・アプリ「ASICS Runkeeper」を使ってランニングまたはウォーキングを5km実施することで1本の植樹ができるプログラム「Run for Reforestation Challenge」をグローバルで実施しました。50,253人が完走し、フットウェア生産委託先工場が多くあるインドネシアを中心に、アシックスグループがあるアメリカカリフォルニア州、メキシコ、ブラジル、ルーマニアなどに合計50,253本の木を、提携する国際NGO One Tree Plantedを通して植えました。今後もお客様とともに気候変動へのアクションを取っていくことで、より良い顧客体験へとつなげ、ブランドへのエンゲージメントを高めていきます。

*詳しくはプレスリリースをご参照ください →

「私たちは、アシックスの継続的な取り組みを称賛しています。『Run for Reforestation Challenge』では、グローバルで50,253本の木を植えることができました。これは、スポーツブランドの健康的な活動が、地球へ良い影響を与える取り組みに結びつけられることを示しています。アシックスの継続的なパートナーシップに感謝するとともに、第2回『Run for Reforestation Challenge』での植樹を楽しみにしています！」



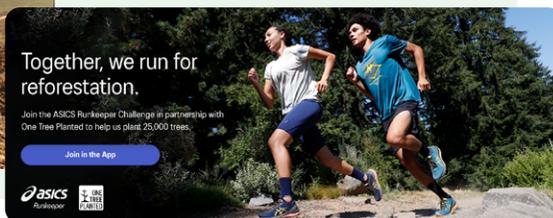
ハンク・ランチ氏のコメント
One Tree Planted
社長兼CEO

85,555

185カ国、85,555名の参加申込。

50,253

50,253名の完走者。
同数をインドネシア、米国、ブラジル、
メキシコ、ルーマニアで植樹。



気候変動への取り組みを推進するための研修

製品のカーボンフットプリント表示を通じてアシックスが与える影響を把握することは、温室効果ガス排出量削減目標の達成に向けた重要な第一歩です。全従業員がアシックスの気候変動への取り組みを理解し、日々の業務の中で実践できるよう、2023年7月にオンラインでサステナビリティ研修を行いました。

この研修では、製品のライフサイクルを通じて温室効果ガスがどのように排出されるか、および温室効果ガス排出削減への取り組みや、カーボンフットプリント表示などが含まれています。このコースは、従業員がアシックスのサステナビリティへの取り組みを、お客様や取引先などのステークホルダーに伝えられるようにすることを目的としています。

これまでにコースを修了した従業員は2,500人を超え、の中には製品部門の従業員も多く含まれています。

2023年、アシックスアメリカの各拠点・部署を代表する10名のアシックス従業員が、サステナビリティについて学ぶため、Underswell School of Understandingを受講しました。この12週間のプログラムでは、生物多様性、循環型ビジネス、企業の責任、労働者の権利などのテーマを扱いました。目的は、従業員を教育し、日々の意思決定の中にサステナビリティを組み込むようにすることでした。同年の参加者がすでに大きな成果を上げていることから、アシックスアメリカではこのプログラムを継続し、2024年には参加者数を増やす予定です。



「循環型ビジネス、生物多様性、ソーシャルコンプライアンスといった概念について学ぶことは、私たちを取り巻く世界についての理解を新たな次元に引き上げてくれるようなものでした」
—アシックス・アンバサダー

従業員のサステナビリティに対する意識調査

従業員が自身の業務においてサステナビリティを推進することを目指し、意識調査を行っており、その目標値を70%以上としています。2023年には、この調査の対象をグローバル規模に拡大しました。対象が増えましたが、従業員の68%がサステナビリティを業務に取り入れていると回答しており、取り組みが前進していることが明らかになりました。今後も定期的に調査を実施し、サステナビリティ業務進捗を確認していきます。

68%

自身の業務において
サステナビリティを
推進している

循環型ビジネスモデルに向けて

アシックスでは、中期経営計画2026の優先分野のひとつとして、循環型ビジネスモデルを取り入れています。

アシックスのデザインフィロソフィーには循環型ビジネスモデルが組み込まれており、製品のライフサイクルにおいて、CO₂排出量を削減するために循環性を高める取り組みが行われています。つまり、リサイクル素材およびリサイクル可能な材料の使用を増やすこと、廃棄物を削減したり、他の目的のために再利用したりすること、消費者へ製品回収サービスを提供することなどです。



At a glance 循環型ビジネス

2023年の目標

- 2030年までにシューズとスポーツウエアにおいて100%再生ポリエステルに切り替える
- 3つの地域（ヨーロッパ・アメリカ・日本）で、リサイクル商品と材料の再利用をさせるために製品回収プログラムを採用する

2023年のアクション

- 各製品のロードマップに基づき、リサイクル素材への切り替えを推進
- 製品設計における循環型ビジネスの探求と消費者との関わり方について検討

2023年の成果

- 従来のポリエステル材の40%以上を再生ポリエステルに切り替え
- 製品回収プログラムを3地域にて達成。日本、アメリカ、オーストラリア

2024年の計画

- すべてのカテゴリーにおいて再生ポリエステルの使用拡大の継続およびサプライヤーとのパートナーシップを強化していく
- 新しい製品設計や、業界の内外において製品を再利用し材料をリサイクルするための選択肢を創出することで、循環型ビジネスモデルへのアプローチを推進していく

循環型ビジネスへのアプローチ



アシックスでは、3つのキーワードを通じて循環型ビジネスへのアプローチを推進しています。そのキーワードとは、「より少なく (LESS)」、「よりクリーンに (CLEANER)」、そして「より長く (LONGER)」です。バリューチェーン全体を通して事業活動に組み込み、温室効果ガス排出量の削減や、水や資源の使用量、廃棄物の削減を目指しています。

廃棄とリサイクル

- LESS より少なく**
→ リサイクルのための製品引き取りプログラム (日本、米国)。
- CLEANER よりクリーンに**
→ 製品における有害物質を排除する。
- LONGER より長く**
→ 再利用のための製品引き取りプログラム (日本、米国)。

販売と製品の使用

- LESS より少なく**
→ 製品の包装を削減する。
(ショッピングバックを含む)
- CLEANER よりクリーンに**
→ 環境に配慮した家具や内装を採用する。
→ 「Run for Reforestation」などの環境イベントの参加や、推進を行う。
- LONGER より長く**
→ ウォーキングシューズの修理サービス (日本)。
→ 返品された商品を再販する (米国)。

物流

- LESS より少なく**
→ 製品の包装、輸送およびeコマースでの包装を削減する。
→ 生産拠点を市場に近づけ、輸送距離を短縮する。
- CLEANER よりクリーンに**
→ 海上および陸上輸送に低炭素輸送オプションを使用。
→ 製品の包装にリサイクル素材などの環境に配慮された材料を使用。
- LONGER より長く**
→ 返品された製品を再利用する取り組みが可能な物流を目指す。

設計と開発

- LESS より少なく**
→ シンプルな設計により、材料の使用量と加工を削減する。
→ リサイクルを考慮した設計。
- CLEANER よりクリーンに**
→ リサイクル素材 (再生ポリエステルなど) の使用。
→ その他の調達において、倫理的で、環境に配慮された材料の使用。
- LONGER より長く**
→ 耐久性の向上。
→ 修理を考慮した設計。
→ 修理可能な設計。

材料調達と製品の製造

- LESS より少なく**
→ デジタルを活用したサンプル作成を推進する。
→ 材料の廃棄量を減らす取り組みや廃材の再利用を推進する。
- CLEANER よりクリーンに**
→ グリーン調達方針を策定し、サプライヤーとの対話による温室効果ガス排出量削減目標の設定、省エネ、再生可能エネルギーへの切り替えを進める。
- LONGER より長く**
→ 再生ポリエステルの使用拡大およびサプライヤーとのパートナーシップを強化する。

事業所 (オフィス、店舗、配送センター)

- LESS より少なく**
→ 省エネ・再生可能エネルギーへの切り替えを進める。
→ 廃棄物の削減 (紙、包装)。
- CLEANER よりクリーンに**
→ オンサイトおよびオフサイトでの再生可能エネルギーの調達。
→ リサイクル素材または環境に配慮された製品の使用する。
- LONGER より長く**
→ 事業所などで、プラスチック使用を減らし、再利用可能なコップ、皿、カトラリー使用を推進する。

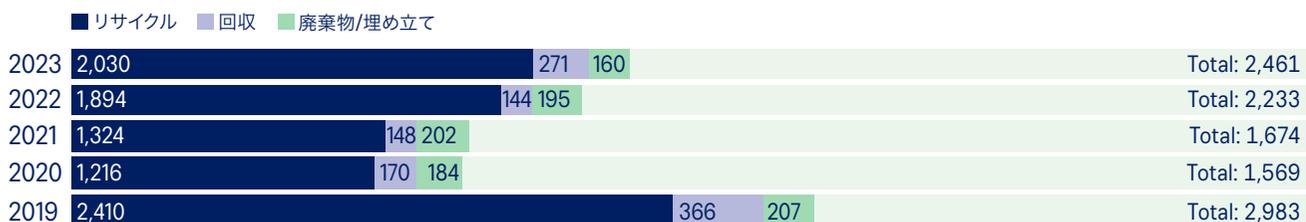
廃棄物の管理

アシックス製品の製造に使用される材料は、製造から使用、廃棄に至るまで、私たちがバリューチェーン全体を通じて与える廃棄物に関する影響の大半を占めています。

廃棄物に対するアプローチは一貫しています。当社の事業所から発生する廃棄物は、アシックス基準を満たす第三者によって管理されており、定期的な証明書や法的に必要とされる文書を確認しています。また、データベースを使用してデータを収集し廃棄物を測定しています。

ヨーロッパのFastFeetGrindedなどのパートナーと協働し、再利用またはリサイクルの取り組みを進めています。埋め立てや焼却される廃棄物の4分の3以上は、4つの拠点（物流センター2か所と工場2か所）から出されたもので、これらの拠点は、廃棄物削減の取り組みの中心拠点となっています。

廃棄物のリサイクルと回収 (トン)



2023: 14社、24拠点、事業の57%をカバー (FTEベース)
2022: 10社、20拠点、事業の64%をカバー (FTEベース)
2021: 11社、26拠点、事業の70%をカバー (FTEベース)

2020: 16社、26拠点、事業の62%をカバー (FTEベース)
2019: 17社、33拠点、事業の65%をカバー (FTEベース)

お茶からインスピレーションを得たシューズ

「GEL-LYTE™ III OG」スニーカーと「GEL-LYTE™ V」スニーカーは、お茶からインスピレーションを得ています。このシューズのアッパーは、廃棄予定の食材（レイボス、柿、抹茶、レタス）から抽出した色素で染め上げた生地を使用しています。「GEL-LYTE™ V」のミッドソールには20%以上のリサイクル素材を使用しています。



[*詳しくはプレスリリースをご参照ください→](#)



「ゴミの分別」に着目したシューズ

「SHIGEN Pack 2.0」は、リサイクルレザー、リサイクルPET、再生紙やネット生地などのリサイクル素材を使用しています。リサイクルへの意識を高めるため、「ゴミの分別」に着目してデザインしています。ブルーとホワイトで

シンプルにまとめながら、適所にリサイクル素材を使うことで、回収されたゴミが生まれ変わる様子を表現しています。「GEL-NYC™」はシューズ総重量の17.7%、「EX89」は16.5%にリサイクル素材を使用しています。

[*詳しくはプレスリリースをご参照ください→](#)

循環型ビジネスモデルのためのコラボレーション

2023年、製品廃棄物の管理を強化し、ヨーロッパのDTC (Direct to Consumer) で消費者から返品され、売り物にならない不良品をリサイクルするためパートナーとの協力関係を拡大しました。ヨーロッパでは、FastFeetGrindedがフットウエアのリサイクルに協力しています。2023年には、98,876kgの材料をリサイクルし、CO₂排出量を531,964kg削減しました。製品が寿命を迎えた時点で再利用またはリサイクルされることだけでなく、リサイクル素材の使用を増やすことも目指しています。2030年までに製品に使用されるポリエステル材をすべて再生ポリエステルに切り替えることを目指しています。

製品での循環型ビジネスモデル

アシックスの新製品の多くは循環型ビジネスモデルを考慮した設計がされています。2021年以降、パフォーマンスランニングシューズの新製品の多くのアッパーの主要素材にリサイクル素材が使用されています。また、廃棄される予定だったお茶で染めた素材やリサイクルレザー、タオルの余剰糸を使用した製品も発売されました。

タオルの余剰糸を活用したシューズ

2023年に発売された商品のひとつに、高品質で長持ちするタオルを作り続け支持を集める藤高タオルとのコラボレーション商品があります。タオルの製造過程で発生する余剰糸を靴ひもに採用し、アッパーは、主要材にリサイクル素材を36%使用しています。

[*詳しくはプレスリリースをご参照ください→](#)



循環型ビジネスモデルに関するステークホルダーとの対話

アシックスは、ステークホルダーとの間で循環型ビジネスモデルに関する積極的な対話を行っています。2023年11月、CIRCOの進行のもと、アシックスヨーロッパのアパレルデザイン・開発チームやフットウェア開発者とともに、循環型デザインに関するワークショップを開催しました。アシックスは、より多くの循環型製品を生み出し、世界の循環型ビジネスの発展に貢献したいと考えています。

循環型ビジネスのパートナーシップ

ジャパンモビリティショー2023の豊田合成株式会社ブースでは、脱硫再生ゴムを使った2030年のコンセプトモデル・スニーカーを発表しました。豊田合成株式会社とのコラボレーションの目的は、産業廃棄物を削減し、生産活動を通じて業界の垣根を越えて循環型ビジネスモデルを生み出し、パートナーシップを形成することでした。このシューズを制作するにあたり、重量、通気性、フィット感、クッション性などの課題に取り組み、スポーツとデイリーユースシューズの開発から得た知見を統合し、快適な履き心地を提供するデザインを提案しました。



生物多様性と水の管理

気候変動は世界の生態系に影響を及ぼし、地域種の喪失や感染症の増加を引き起こしています。また、生物多様性が減少すれば、自然界に蓄積される炭素の量が減少し、結果的に気候変動が進行します。従ってアシックスは、気候変動と生物多様性は同時に取り組むべき課題であると考えています。

アパレル・フットウェア産業は全体として、綿やレザーなどの天然素材を調達し、繊維の染色工程で多くの水を消費し、マイクロプラス

チックを自然界に放出することから、生物多様性に最も大きな影響を与える産業のひとつとみなされています。

アシックスでは、ビジネスが果たす役割を認識し、生物多様性への取り組み体制を整えています。生物多様性に与える影響を把握するために引き続き調査を行い、SBTs for Natureが提供するAR3Tフレームワークを用いて行動計画を策定します。

At a glance 生物多様性と水の管理

2023年の目標

→ 一次生産委託先工場の水使用量1足あたり20%削減
(2015年度比)

2023年のアクション

→ 染色工程での水使用量を削減する技術検討を継続
→ 「Run for Reforestation Challenge」を通じて、消費者にCO₂削減と生物多様性の取り組みを働きかける

2023年の成果

→ 製造するシューズ1足あたりの水使用量を30.2%削減

2024年の計画

→ 生物多様性に関する方針に沿って取り組みを推進する



生物多様性に関する方針

生物多様性に関する方針は、天然素材の調達、水の管理、繊維の染色などの分野におけるアシックスのビジネスと生物多様性との関係について説明しています。この方針は、グローバル環境方針にも示されています。

アシックスはLeather Working Group (LWG) のメンバーであり、加盟企業の一員として、2030年までに森林破壊と土地転換のないレ

ザーを100%調達するというLWGの目標に賛同しています。また、ファッション協定に加盟し、持続可能な森林管理も支持しています。製品開発においては、製品や包装資材にリサイクル素材を調達し、水の消費量を削減する技術を採用するなど、製品の技術設計を通じて生物多様性への悪影響を削減する取り組みを進めています。

SBTs for Natureが提供するAR3Tフレームワーク

アシックスは、生物多様性に与える悪影響を抑え、生態系を回復・再生させるため、現在のシステムを転換するための行動計画を含むSBTs for NatureのAR3Tフレームワークを採用しています。



水への影響と管理

水の過剰消費と水源の汚染は、いずれも生物多様性の喪失につながるため、水への影響を最小化するアプローチは、アシックスが生物多様性に及ぼす影響を緩和する取り組みでもあります。重要テーマである「生物多様性と水の管理」の観点では、バリューチェーン全体を通じて、水に関してステークホルダーと積極的に対話しています。

グローバルに事業を展開するアシックスにおいては、事業活動を行う地域での水不足リスクがあります。バリューチェーンでの水利用

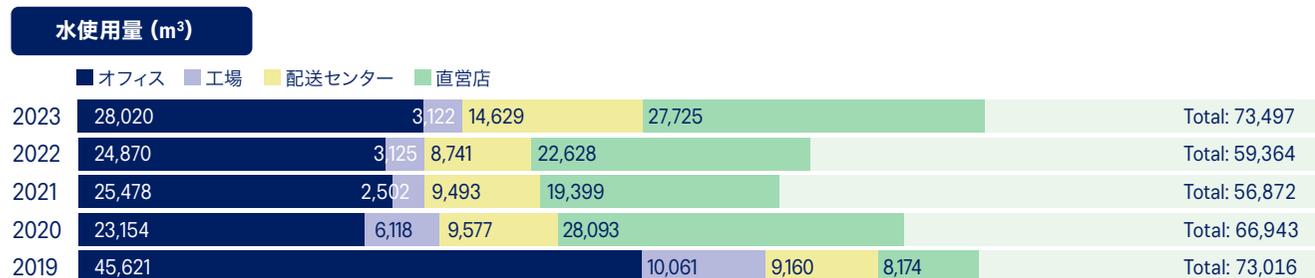
は避けられませんが、水の使用量削減と排水の適切な管理に取り組んでいます。

アシックスは、水使用量の管理とモニタリングは重要と考えており、一次生産委託先工場からの環境データを取得するHigg FEMなどのデータ管理システムを通じてモニタリングをしています。

水の使用量を減らすためのイノベーション

建設、改築、移転の際に節水効果の高い設備に交換したり、従業員に節水を奨励したりすることで、水への影響を軽減しています。

また、アシックスの製品の一部に、ソリューションダイという技法が採用されています。この技術はアパレルを生産したり、染色したりする過程で、大量の廃水が出るのを削減することができ、通常の染色方法と比べて約33%の節水が可能になります。



2023: 23社、72拠点、事業の69%をカバー (FTEベース)
2022: 13社、68拠点、事業の67%をカバー (FTEベース)
2021: 13社、74拠点、事業の69%をカバー (FTEベース)
2020: 28社、82拠点、事業の75%をカバー (FTEベース)
2019: 30社、92拠点、事業の79%をカバー (FTEベース)

製品・サービスの品質

アシックスは、製品とサービスによって人々の"Well-being"を向上させることを目指しています。そのためには、私たちの提供する製品やサービスが高品質かつ安全であることは大変重要です。

アシックスは、製品やサービスに適用されるすべてのグローバル基準およびお客様の要求を満たすよう、安全性と品質の保証・管理の仕組みを運用し、改善していくことを目指しています。また、製品に含まれる制限化学物質の管理も継続していきます。

[*詳しくはホームページ「化学物質の管理」をご参照ください→](#)



At a glance 製品とサービスの品質

2023年の目標

→ 有機フッ素化合物 (PFAS) 規制の遵守

2023年のアクション

→ あらゆる用途における PFASフリー材料への切り替えと、2025年1月からの米国のPFAS規制への対応

2023年の成果

→ あらゆる用途における PFASフリー材料への切り替えと、米国でのPFAS含有製品の販売終了に向けた準備

2024年の計画

→ PFAS規制を含むグローバルな制限化学物質規制の継続的遵守

品質と安全性の保証

アシックスの製品とサービスがお客様の要求を満たし、適用されるグローバル基準を遵守し続けるために、すべての業務において安全性と品質の保証・管理の仕組みを導入しており、絶えず改善を行っています。

情報共有や教育は品質と安全性に対する私たちのアプローチの中心であり、安全性と品質の保証・管理の仕組みには欠かせません。日本国内では2003年以降、製品の品質と安全性に関する「品質情報展」を社内で毎年開催しています。2023年の「品質情報展」はオ

ンラインで開催され、参加した人の80%以上が、自身の仕事に役立ったと回答しています。自社の従業員への研修に加え、サプライヤーのスタッフへの研修と認定も行っています。

四半期ごとに「製品安全管理者会議」を開催し、製品やサービスに対するお客様からのお申出を共有するとともに、製品の安全性や改善点について議論しています。過去の製品の不良を是正する改善措置が取られたことも確認します。

製品の設計、開発、製造の各段階において、製品の品質と安全性を評価・試験する仕組みを運用しています。しかしながら、2023年には、品質と安全性に関する不適合事例（製品の不良）が2件発生しました。

お客様との責任あるコミュニケーションも、製品の品質と安全性のためには欠かせない要素です。私たちは、マーケティングや製品情報に関するコミュニケーションが真実に基づいており、お客様に誤解を与えないものであるよう審査するシステムを運用しています。しかしながら、日本では2023年に製品情報の表示に関する誤りが1件発生しました。

制限化学物質の管理

アシックスは、規制化学物質に関する環境汚染等の影響を低減するよう取り組んでいます。

PFAS規制の遵守

近年、世界各国で有機フッ素化合物 (PFAS) 規制が強化されています。2016年以降、アシックスはPFASを含まないはっ水剤を採用す

る活動に取り組んできました。さらに、現在では、はっ水目的に限らず、あらゆる用途におけるPFASを削減し、2025年1月から開始される米国での規制に対応するため、準備を進めています。

制限化学物質の削減

アシックスは2013年から、「アパレル及びフットウエアに関する国際的な制限物質リスト管理グループ: Apparel and Footwear International RSL Management Group (AFIRM)」に加盟しています。このグループは、アパレルおよびフットウエアのサプライチェーンにおける制限化学物質の使用とその影響を削減するため、業界全体の協力を推進しています。私たちは最新のAFIRM規制物質リスト (AFIRM RSL) を使用して、人にも環境にも優しい安全性の高い製品の提供に努めています。

主要フットウエア工場における揮発性有機化合物 (VOCs) の削減
フットウエア、特に高機能なスポーツ用フットウエアの製造には、接着剤の使用を伴います。従来、フットウエアの製造には、揮発性有機化合物 (以下、VOCs) を含む有機溶剤をベースとした接着剤が使用されてきました。しかしながら、これらの有機溶剤は、人の健康や環境に悪影響を与える可能性があります。これらの使用を減らすため、私たちは2011年以降、水をベースとした接着剤への切り替えや、より少ない部品数でフットウエアを製造するための生産技術・設計技術の採用により、有機溶剤をベースとした接着剤の使用量を削減しています。2023年、当社の戦略的工場におけるVOCsの使用量は3,611トンと推定されました。この数字は、工場での廃棄量を含む、接着剤などの合計消費量の計算に基づいています。すべてのVOCsは適切に管理されています。

ASICS VISION2030

におけるサステナビリティ

Global Integrated Enterpriseへの変革を通じて サステナビリティを促進する

2024年3月をもって代表取締役社長COOを任せられましたことを光栄に思います。アシックスは、誰もが一生、運動・スポーツに関わり、心と身体が健康で居続けられる世界の実現を目指しています。

サステナビリティは、アシックスの企業理念の中核をなしています。これは「VISION2030」の中核テーマでもあり、「製品 (Product)」、「施設+コミュニティ (Facility+Community)」、「分析+診断 (Analysis+Diagnosis)」という3つの事業ドメインに共通のテーマとなっています。

2023年、この枠組みは、新しい「中期経営計画2026」に反映されました。「中期経営計画2026」が目指すのは、「Global Integrated Enterprise (GIE)」への変革です。アシックスグループ一体となり、明確な戦略の下でサステナビリティアクションをさらに加速させます。また、世界各地の当社グループの経営リーダーがサステナビリティを含む主要経営テーマについて積極的に議論する場を設けるため、年に2回のグローバルサミットを開始しました。

デジタル技術の活用はGIEへの変革には不可欠です。アシックスは、グローバルでデジタルを用いたサプライチェーン改革の遂行とデータプラットフォームの構築により、「オペレーショナルエクセレンス」を追求し、サプライチェーンでの透明性とトレーサビリティの向上、脱炭素化、人権デュー・ディリジェンスの推進に取り組んでいます。

また、デジタル化を通じて、「ランニングエコシステム」を拡大させ、人々の「Sound Mind, Sound Body」を推進し、お客様の「Run for Reforestation」への参加を促し、それらの活動により環境に良い影響を及ぼしながら、グローバルでアシックスのブランド体験と価値向上を図っています。

人々の心身の健康を、そしてそれが世界にポジティブな影響をもたらすことを目指して、今後も皆様とともに取り組んでいきたいと考えています。

代表取締役社長COO 富永 満之

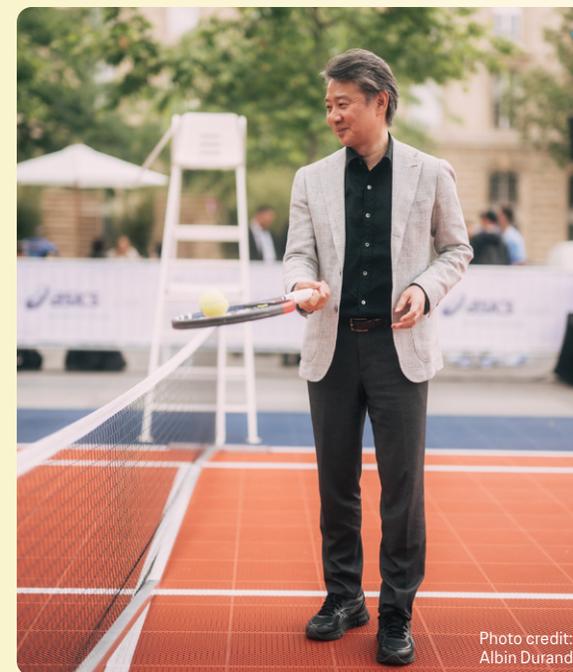


Photo credit:
Albin Durand

財務的影響を含むシナリオ分析 (TCFD)

重要テーマを決定するための「ダブルマテリアリティ」アプローチでは、サステナビリティが事業に与える影響を考慮し、財務的な影響の観点から評価する必要があります。2023年、アシックスはTCFDに従って、気温が1.5°C、2°C、4°C上昇するという異なる将来シナリオの下での事業戦略のレジリエンスを把握するため、シナリオ分析を実施しました。

気候変動に関するリスクと機会を分析するにあたり、2030年と2050年の時間軸を設定しました。これは、2030年に向けた当社の事業戦略に反映させるとともに、2050年までにネットゼロを達成するというコミットメントを反映するため、このシナリオ分析の一環として、アシックスの全事業を検討しました。

*詳しくは「アシックス統合報告書 2022」P39をご参照ください →

2030年と2050年という時間軸と、その時点での気候変動による影響を考慮し、移行リスクとの関連性が深いIEAのシナリオを参照することとしました*。具体的には、複数のIEA科学シナリオ、すなわち1.5°CについてはIEA NZE 2050、2°CについてはIEA APS、そして最大4°CについてはIEA STEPSを参照しました。当社製品に使用する材料の価格動向や製品表示規制などのパラメータは、関連するコストに影響を与えると考えられます。関連するステークホルダーが、報告および表示の方法を可能な限り整合させることを目指すと仮定しました。そのため、個別に対応するためのコストは含めていません。

2030年と2050年という時間軸と、その時点での気候変動による影響を考慮し、物理的リスクとの関連性が深いRCPシナリオを参照することにしました*。具体的には、複数のRCP科学シナリオ、すなわち2°CについてはRCP 4.5、4°CについてはRCP 8.5を参照しました。

当社の製造拠点の所在地や主要マーケットの暑さ指数などのパラメータは、気候リスクのレベルに影響を与えると考えられます。2030年に向けて、主要な製造拠点や主要マーケットは基本的に変わらないと仮定しました。そのため、他の場所に対応するためのコストは含めていません。

移行リスクおよび物理的リスクの評価に関しては、分析の選択肢としてシナリオと併せて2030年および2050年についてSSP2を使用しました。このシナリオを使用した分析は、定量的に行いました。

*これは、2030年時点では+2°C+4°Cのシナリオでほぼ同じ気温変化が起これると言われているためであり、物理的リスクの影響は2030年以降に大きくなると予想されるためです。

TCFDに即した情報開示

私たちはスポーツメーカーとして初めて気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 提言への賛同を表明し、それに即した情報開示を積極的に進めています。シナリオ分析に基づくリスクと機会を特定し、そのインパクト・対応策を分析し、事業戦略へ反映しています。

	リスクの内容	事業へのインパクト	財務インパクト/年	対応策
移行リスク	原材料価格の変動	石油由来原材料の調達コストの上昇	43億円 (2050年、4°C)	→ 財務影響を抑えた材料目標・ロードマップの策定 → サプライヤーとの連携強化
	製品表示規制の導入	規制への対応のためのシステム導入コスト・人件費の増加	13億円	→ 規制を早期に理解し、必要なリソースを確保 → 製品のカーボンフットプリント表示
物理的リスク	気温上昇によるスポーツ時間の減少	スポーツ機会(時間)の減少に伴う製品の買い替え頻度減少による売上の減少	24億円 (2050年、4°C)	→ 気温が上昇しても対応できる製品の拡大 → 屋外スポーツができる機会が減少しても対応できるサービスの展開
	台風、洪水の激甚化によるサプライチェーンの操業停止	生産委託先工場の浸水に伴う操業停止による売上機会の喪失	7億円	→ 自然災害リスクが高い地域にある生産委託先工場を認識したソーシング戦略
機会の内容				
機会	顧客基盤の拡大 → 気候変動への積極的な取り組みを通じて新たな顧客層へのエンゲージメントを高める			
	低炭素製品・サービスの開発・拡大を通じたイノベーション創出 → サステナビリティと機能性を追求することでイノベーションを創出 → CO ₂ 排出が少ない製品・材料の開発 → CO ₂ 排出が少ない価値創造(新ビジネス領域)の特定、構築			
	気温上昇に対応した製品・サービスの展開 → 人間工学研究の知見やデジタルを活用し、どんな環境下でも快適にスポーツを楽しめるソリューションを提供			
サステナブルファイナンスの活用 → 企業のサステナビリティパフォーマンスと透明性を向上し、グリーンボンド等の積極的な活用により、効率的な資金調達を実施				

* 2022年度のデータに基づき算出

Appendix

CHAPTER HIGHLIGHT

データテーブル **44**

当社のレポートングについて **45**



People データテーブル

サプライチェーン

トレーニング参加者と監査工場数	2023	2022	2021
トレーニング参加者数	90	30	>100
監査実施工場数	71	36	34

従業員

各地域の従業員数	2023	2022	2021
日本	1,472	1,530	1,634
北米地域	1,314	1,230	1,226
欧州地域	1,556	1,542	1,585
中華圏地域	1,133	1,046	976
オセアニア地域	274	240	259
東南・南アジア地域	439	373	346
その他地域	630	795	726
グループ全体	2,109	2,130	2,109
合計	8,927	8,886	8,861

男女賃金格差

79.8%

男性の賃金に対する女性の賃金の割合(2023年のデータに限る)

Planet データテーブル

スコープ1

CO ₂ 排出量 (単位:トン)	2023	2022	2021
オフィス	1,669	1,488	1,542
配送センター	765	846	861
工場	286	295	248
小売店	861	404	430
スコープ1合計	3,581	3,034	3,082

スコープ2 (マーケット基準)

CO ₂ 排出量 (単位:トン)	2023	2022	2021
オフィス	1,654	1,431	2,162
配送センター	2,155	2,088	2,168
工場	632	986	1,025
小売店	13,636	16,528	14,034
スコープ2合計	18,077	21,032	19,389

スコープ1+スコープ2合計 **21,659** **24,066** **22,471**

スコープ3

CO ₂ 排出量 (単位:トン)	2023	2022	2021			
1. 購入した製品・サービス	596,452	82.8%	675,053	82.7%	564,546	82.5%
2. 資本財	18,452	2.6%	14,936	1.8%	8,801	1.3%
3. スコープ1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動	894	0.1%	882	0.1%	786	0.1%
4. 輸送、配送(上流)	48,433	6.7%	61,641	7.6%	49,487	7.2%
5. 事業から出る廃棄物	31	0.0%	40	0.0%	50	0.0%
6. 出張	4,465	0.6%	2,621	0.3%	599	0.1%
7. 従業員の通勤	416	0.06%	437	0.1%	299	0.0%
8. リース資産(上流)	-	-	-	-	-	-
9. 輸送、配送(下流)	6,531	0.9%	7,981	1.0%	6,920	1.0%
10. 販売した製品の加工	-	-	-	-	-	-
11. 販売した製品の使用	16,275	2.3%	18,143	2.2%	22,434	3.3%
12. 販売した製品の廃棄	28,465	4.0%	34,532	4.2%	30,382	4.4%
13. リース資産(下流)	-	-	-	-	-	-
14. フランチャイズ	-	-	-	-	10	0.0%
15. 投資	-	-	-	-	-	-
スコープ3合計	720,414	816,266	684,313			

スコープ1+スコープ2+スコープ3合計 **742,073** **840,332** **706,784**

フットウェア一次生産委託先工場の環境パフォーマンス

カテゴリー	単位	2015(基準年)	2019	2020	2021	2022	2023
CO ₂ 排出量	kg/足	2.45	1.77	1.42	1.55	1.64	1.77
水	m ³ /足	0.034	0.031	0.027	0.024	0.021	0.024
廃棄物	kg/足	0.021	0.03	0.019	0.008	0.022	0.043
リサイクルまたは回収された廃棄物	トン	12,606	5,352	4,962	6,922	9,71	6,568

この表はフットウェア工場全体の95%を占めるベトナム、インドネシアおよびカンボジアの19の工場(ソール工場含む)のデータに基づいている。2022年のCO₂排出量についてはデータの更新および評価の改善に伴い、再度計算されている。

「サステナビリティレポート2023」の発行にあたって

本レポートでは、アシックスのサステナビリティにおける社会的、環境的側面での戦略的アプローチや目標、パフォーマンスおよび計画について説明しています。これは、2020年に設定した2030年および2050年の目標に向けた活動の3年目であり、中期経営計画2026を策定した年でもあります。

アシックスのサステナビリティの全体像を示しており、マテリアリティ（重要テーマ）に基づいて構成されています。このレポートは、統合報告書と併せて使用されることを目的としています。[アシックス統合報告書](#)は、サステナビリティがどのように当社のコアバリューと事業戦略に組み込まれ、価値創造を高めているかを示す、より広範な視点を提供しています。

サステナビリティレポートは毎年発行します。2023年のレポートの対象期間は、2023年1月1日から12月31日までとしています。2023年度のサステナビリティレポートは英語版が2024年6月16日に発行されています。本レポートはそれを日本語版に再編集をしたものです。英語版のサステナビリティレポート2023に掲載している2023年のCO₂排出量（スコープ1、スコープ2、スコープ3 カテゴリー1 購入した製品・サービス）、2023年のエネルギー使用量及び2023年の株式会社アシックス単体の女性管理職比率は、英語版のサステナビリティレポートにおいて第三者保証を受けています。

[詳細はこちらからご覧ください →](#)

ホグロフスの事業の情報は、ホグロフスのサステナビリティレポートをご参照ください。本レポートは、GRIスタンダードに従って作成されました。現在、IFRS S1およびS2に加えてCSRDにも準拠し、ESRSを使用して報告する準備を進めています。今後のレポートで進捗状況を共有します。

サステナビリティは、これまででも、これからも、アシックスの経営の中核をなすものであり、持続可能な未来に向けて努力し続けます。





©2024 ASICS Corporation.
All rights reserved.


sound mind, sound body

1-1, Minatojima-Nakamachi 7-chome, Chuo-ku,
Kobe, 650-8555, Japan
+81-(0)50-1745-2248
www.asics.com